

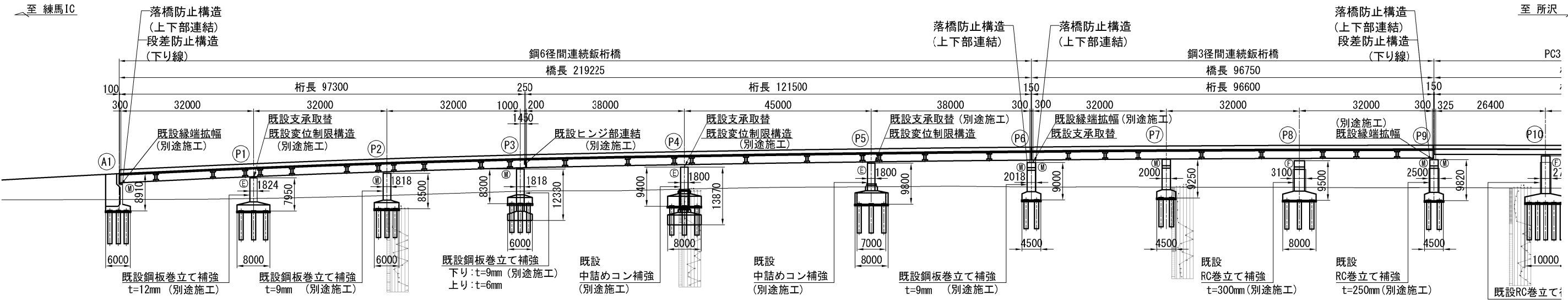
関越自動車道

大泉高架橋

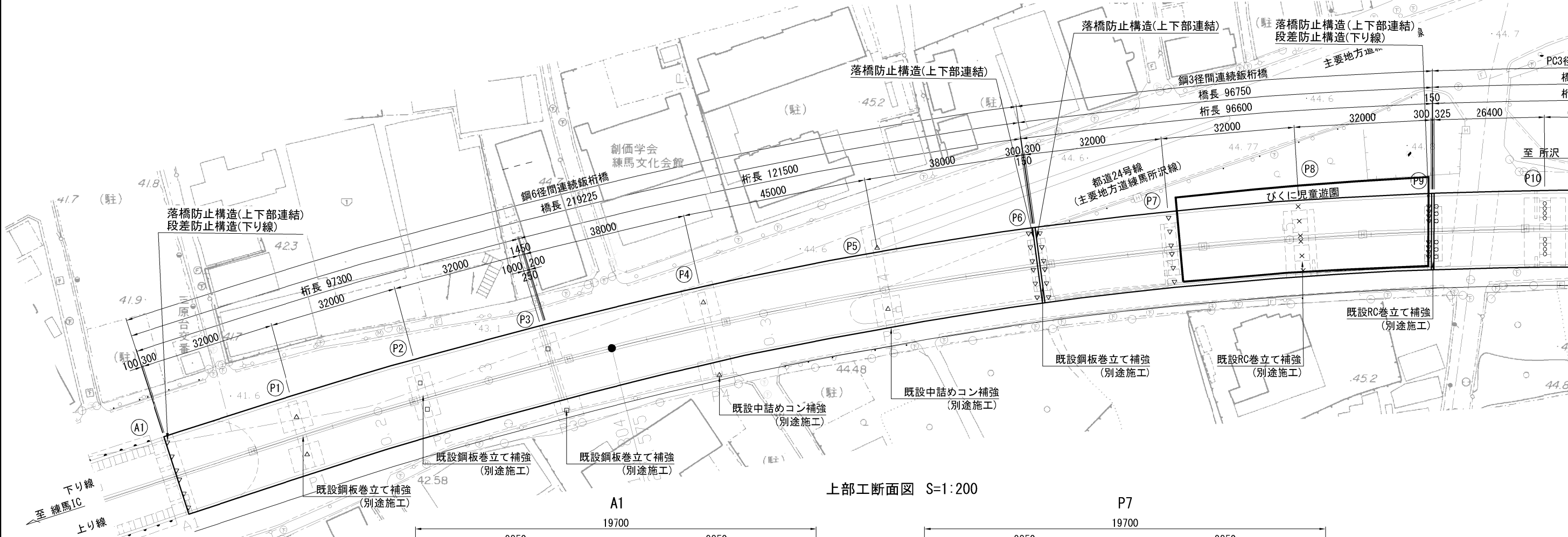
大泉高架橋 耐震補強一般図(その1) S=1:1000

216/243

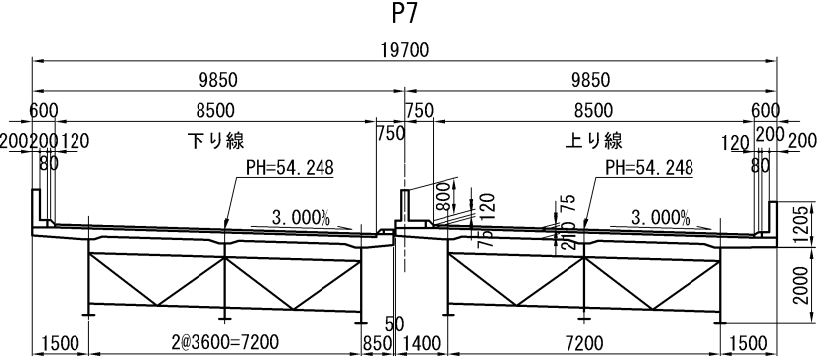
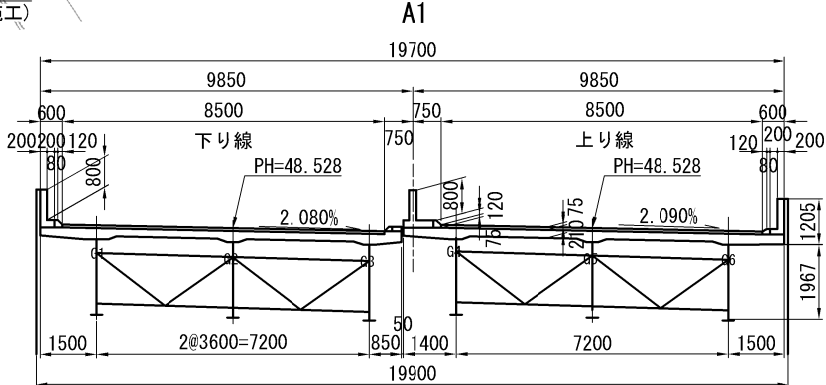
A1~P9  
側面図



平面図



上部工断面図 S=1:200



首都圏中央連絡自動車道 入間インターチェンジ橋耐震補強工事			
図面の種類	大泉高架橋 耐震補強一般図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 所沢管理事務所		

大泉高架橋 耐震補強一般図(その2) S=1:500

A1～P9

建設時設計条件(A1～P9)

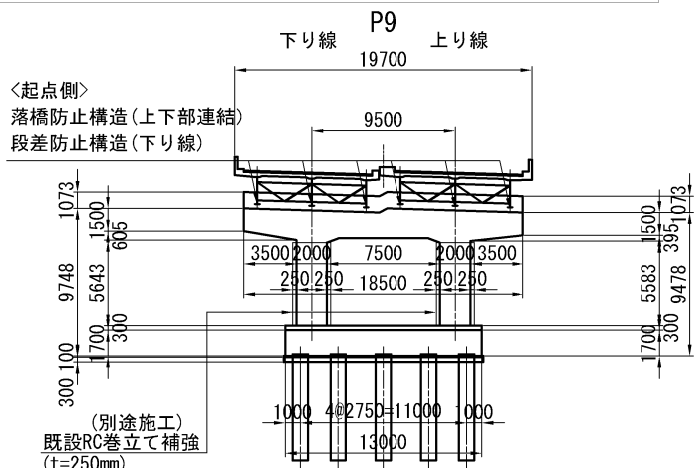
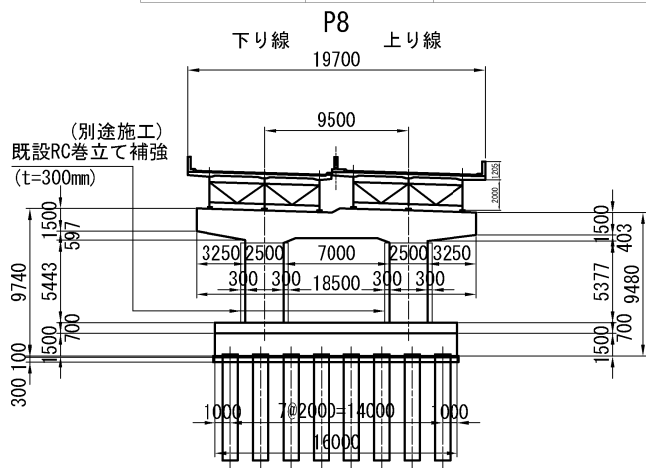
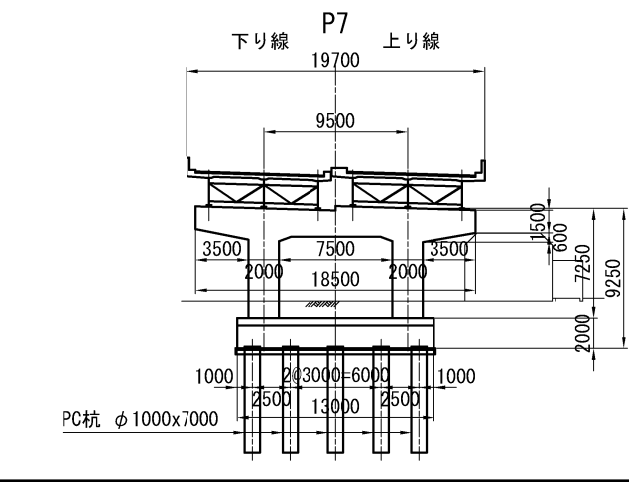
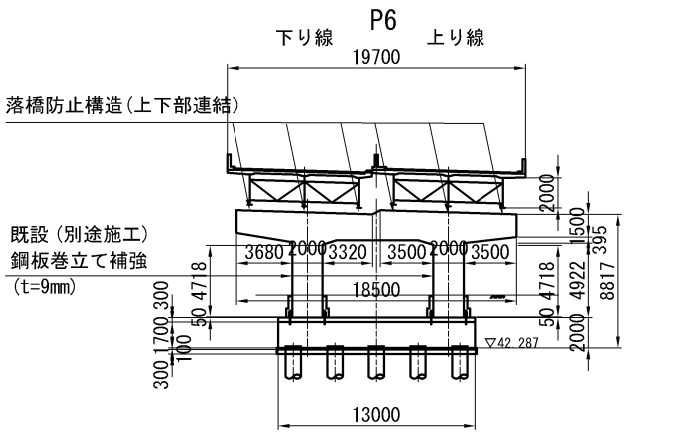
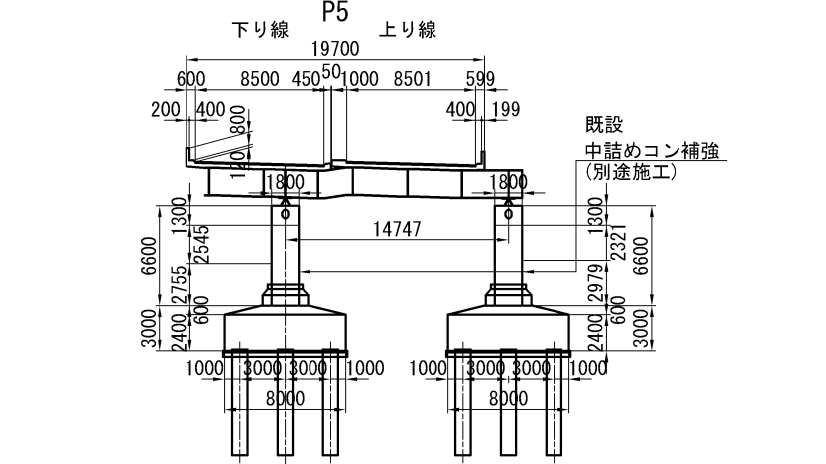
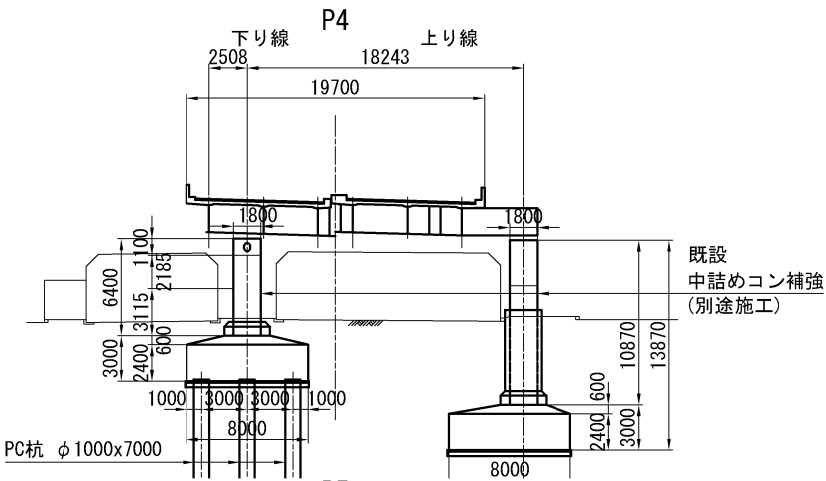
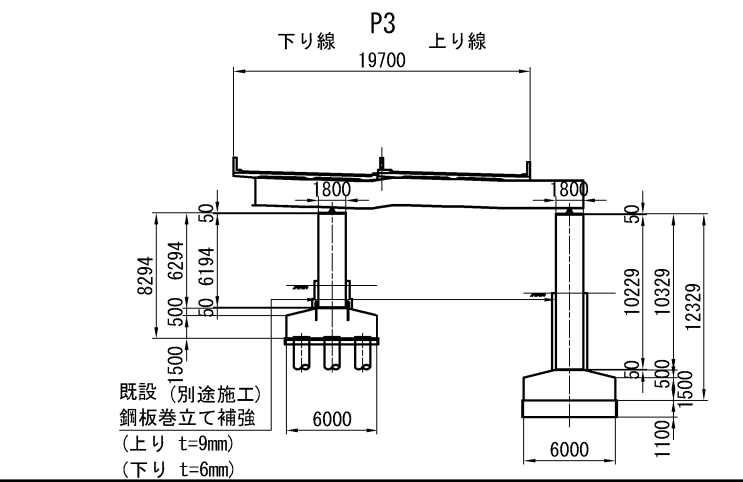
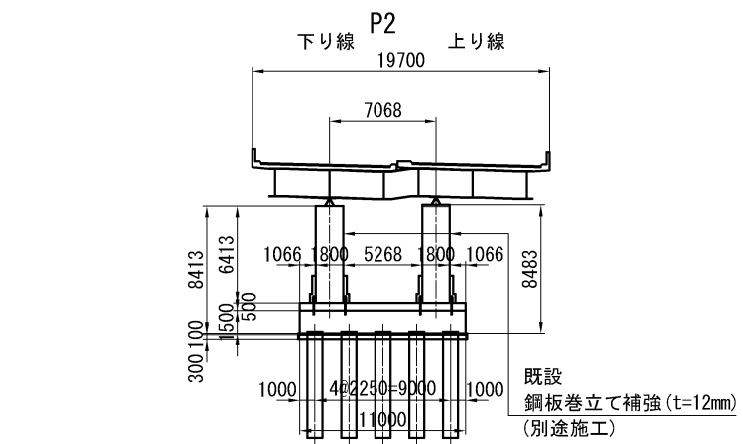
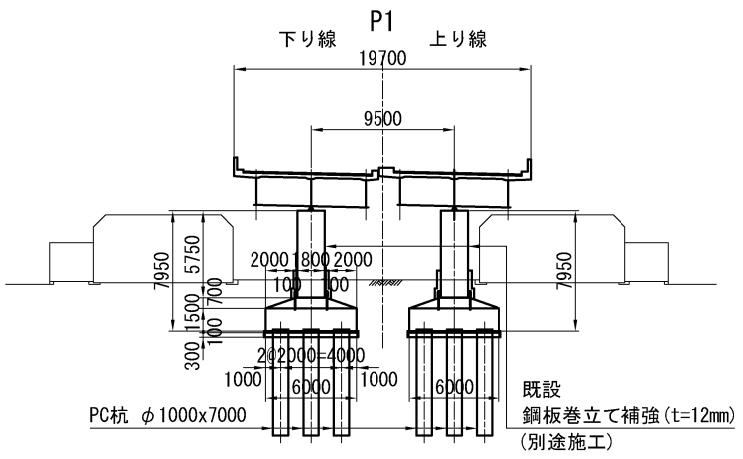
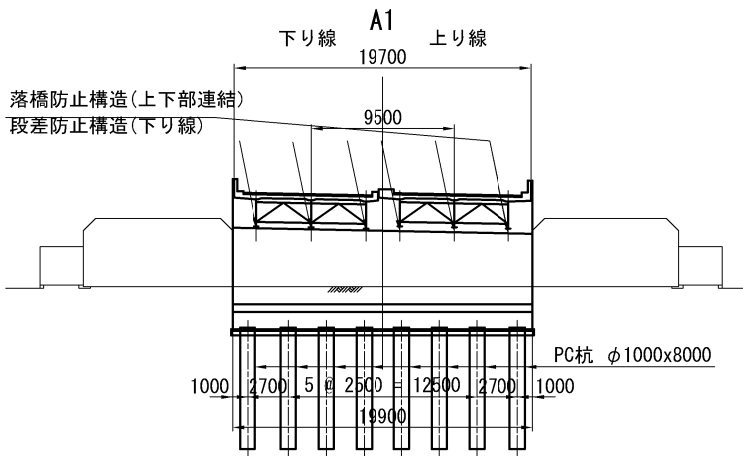
橋長	上り線	L=219.225m、96.750m
	下り線	L=219.225m、96.750m
支間長	上り線	32.0+32.0+32.0+38.0+45.0+38.0、32.0+32.0+32.0
	下り線	32.0+32.0+32.0+38.0+45.0+38.0、32.0+32.0+32.0
全幅員	上り線	9.850m
	下り線	9.850m
有効幅員	上り線	8.500m
	下り線	8.500m
上部工形式	上り線	鋼6径間連続鈑桁橋、鋼3径間連続鈑桁橋
	下り線	鋼6径間連続鈑桁橋、鋼3径間連続鈑桁橋
下部工形式	上り線	逆T式橋台、単柱式橋脚、複柱式橋脚、ラーメン橋脚
	下り線	逆T式橋台、単柱式橋脚、複柱式橋脚、ラーメン橋脚
活荷重		TL-20
完成年		1971年(昭和46年)
設計基準		S39鋼道路橋設計示方書、S39溶接鋼道路橋示方書、設計要領 第二集(日本道路公団)
設計水平震度		kh=0.20
使用材料	コンクリート	σ <sub>ck</sub> =24N/mm <sup>2</sup>
	鉄筋	SD295
	鋼材	SS400

過年度耐震補強設計条件(A1～P9)

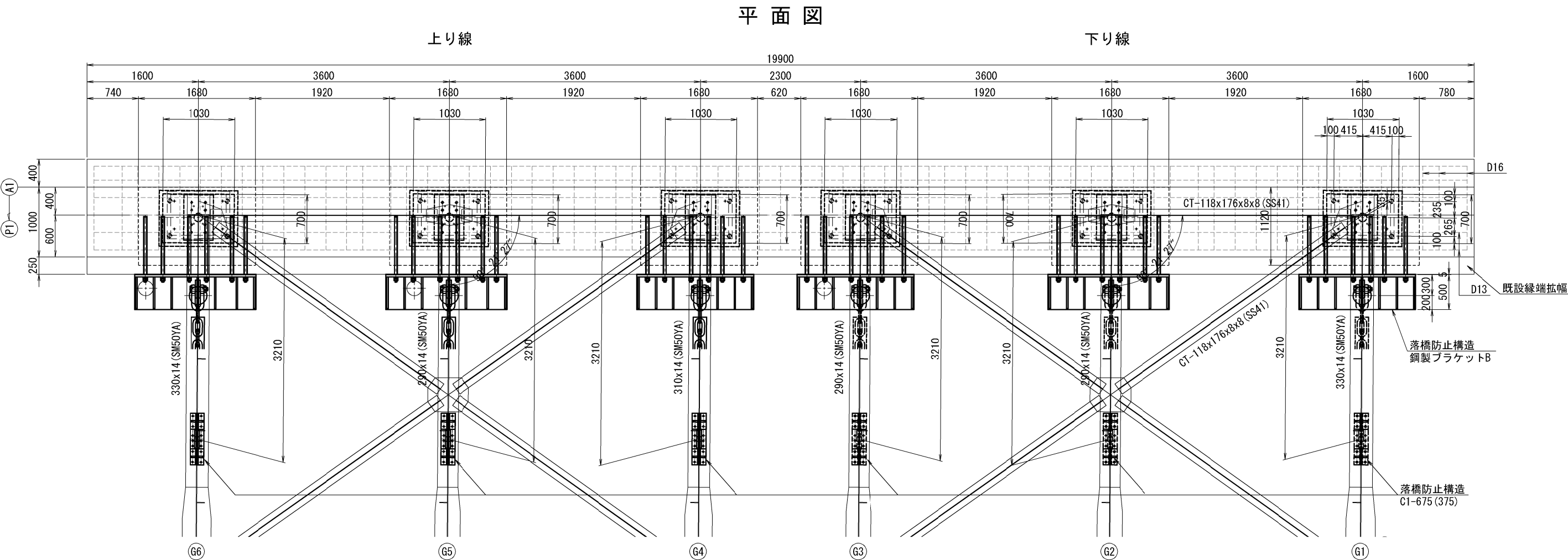
設計年、完成年	設計：1997年(平成9年)、完成：不明	
設計基準	H7「兵庫県南部地震により被災した道路橋の復旧に係わる仕様」の準用に関する参考資料(案)、H7兵庫県南部地震により被災した道路橋の復旧に係わる仕様及び復旧仕様の解説(案)、H6道路橋示方書・同解説、H2道路橋示方書・同解説、H7耐震設計・施工要領(案)	
使用材料	コンクリート	σ <sub>ck</sub> =24N/mm <sup>2</sup>
	鉄筋	SD345
	鋼材	SS400
補強内容	RC巻立て(t=250、300mm)、鋼板巻立て(t=6、9、12mm)、支承取替、変位制限構造、縁端拡幅	

今回耐震補強設計条件(A1～P9)

設計基準	R5設計要領 第二集 橋梁保全編、H24道路橋示方書・同解説	
活荷重	B活荷重	
地盤種別	Ⅱ種地盤	
使用材料	コンクリート	σ <sub>ck</sub> =30N/mm <sup>2</sup> (設計計算上は24N/mm <sup>2</sup> )
	鉄筋	SD345
	橋脚	縁端拡幅(梁補強)
補強内容	上部工	落橋防止構造(上下部連結)



首都圏中央連絡自動車道 入間インターチェンジ橋耐震補強工事			
図面の種類	大泉高架橋 耐震補強一般図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 所沢管理事務所		



注記)

1. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、竣工図を基に作図を行っている。

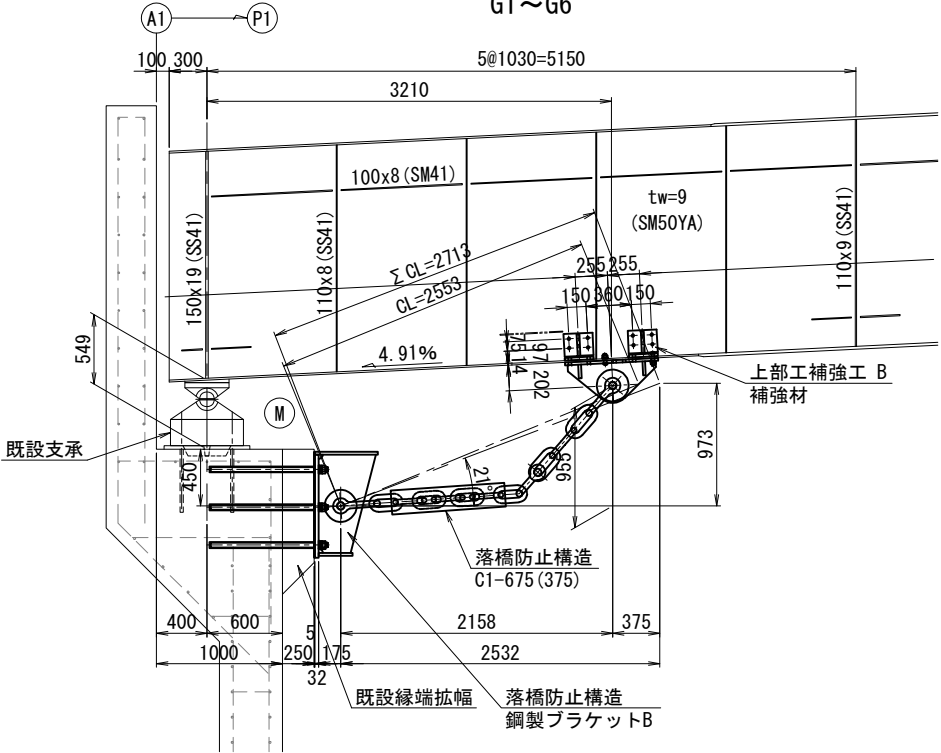
2. 既設構造物寸法形状は、工事に先立ち再計測・再確認を行い、実測値を反映すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間インターチェンジ橋耐震補強工事			
図面の種類	大泉高架橋(上下線)		
	A1橋台 落橋防止システム配置図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 所 沢 管 理 事 務 所		



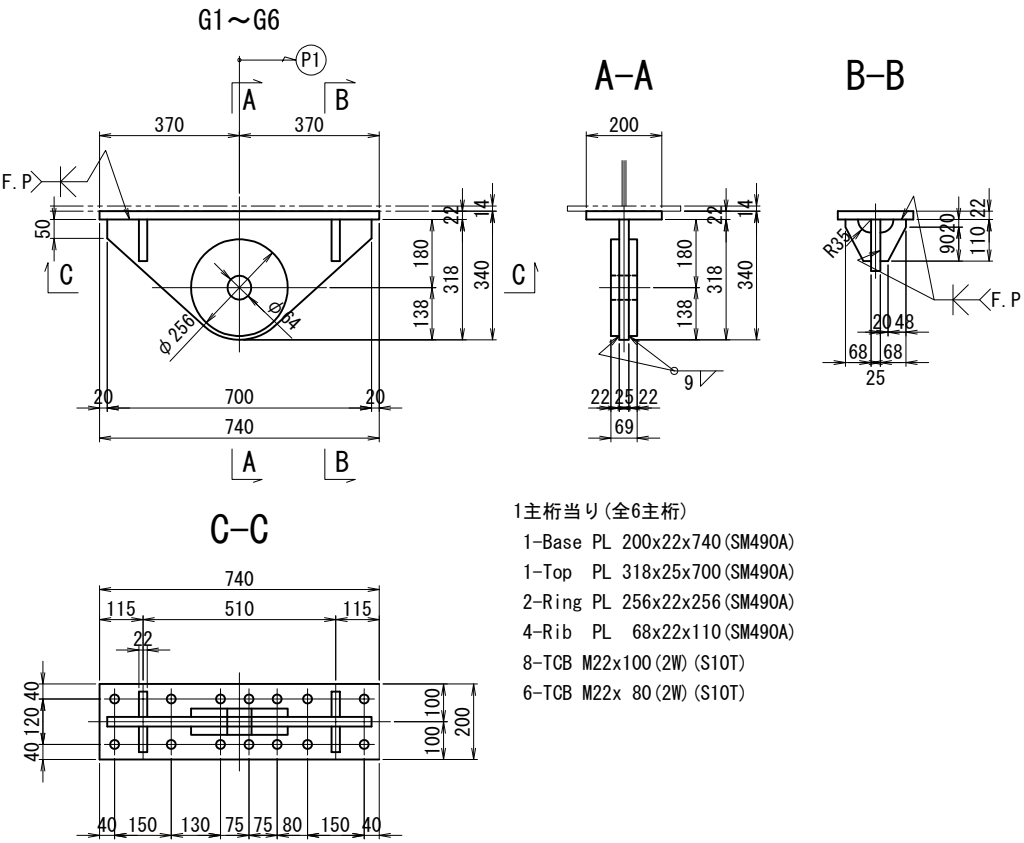
側面図

G1~G6



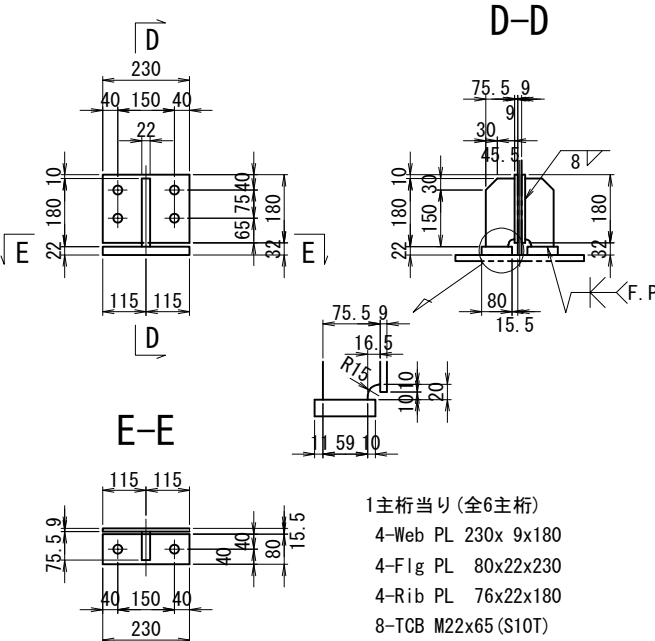
上部工側ブラケット

G1~G6



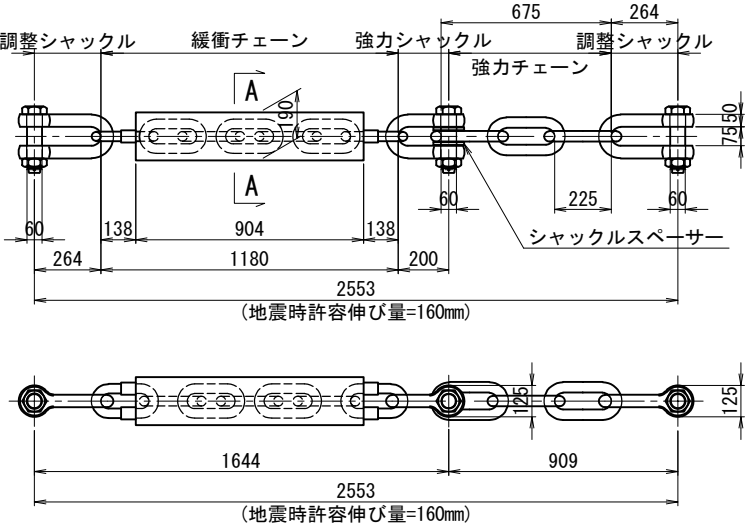
主桁補強材詳細図

上部工補強工 B

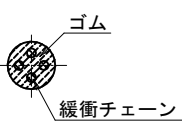


チェーン詳細図(参考図) S=1:30

C1-675(375)



A-A

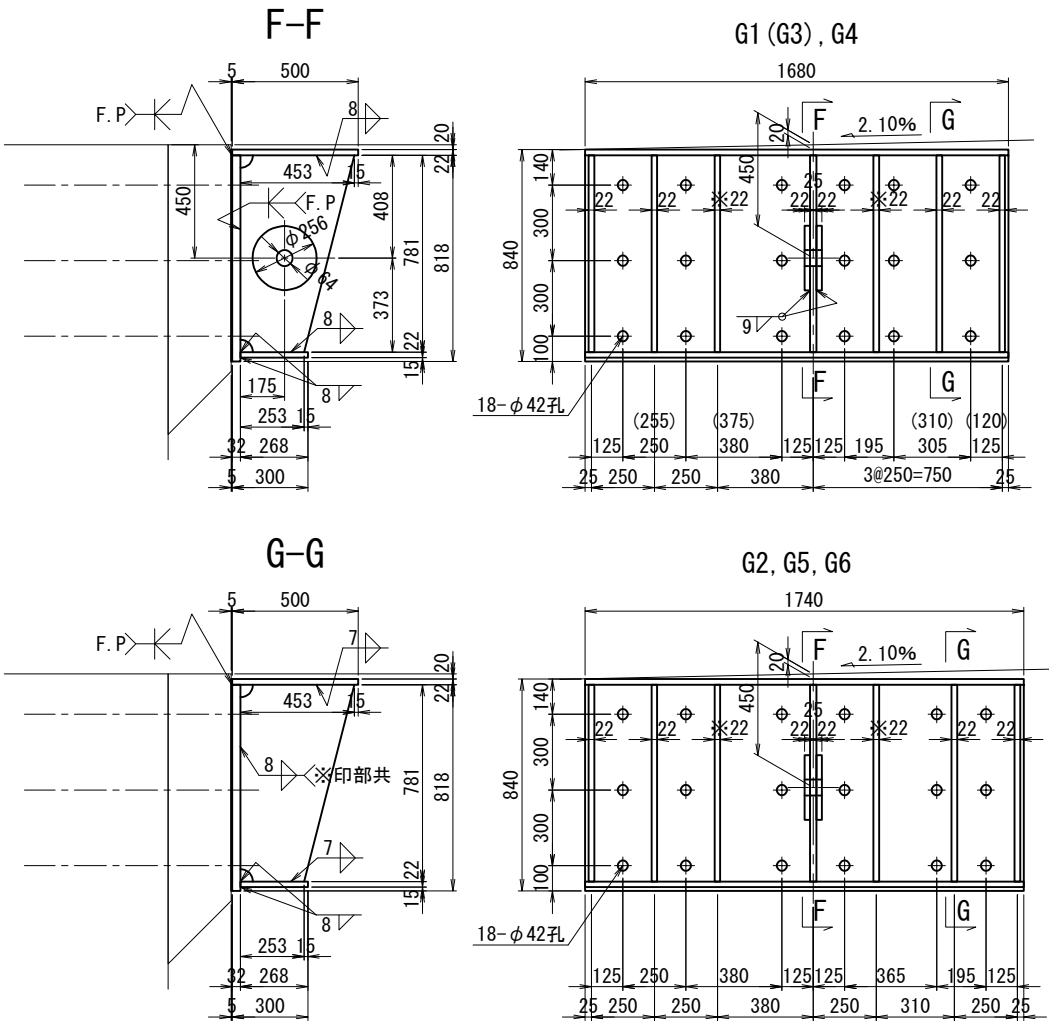


死荷重反力	1260 kN
設計水平地震力	1890 kN
1本当たりの引張力	675 kN
設計移動量	375 mm

- 注記)
1. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、竣工図を基に作図を行っている。
  2. 既設構造物寸法形状は、工事に先立ち再計測・再確認を行い、実測値を反映すること。
  3. 特記なき材質は全て SM400A とする。
  4. 高力ボルトはトルシア形 M22 (S10T) とする。
  5. 部材加工・製作に際しては現地計測を行い、実測値を反映のこと。
  6. アンカーボルトは削孔部の鉄筋探索を行い、鉄筋を避けて施工のこと。
  7. 特記なき孔明けは、既設部材：24.5φ、新設部材：26.5φとする。
  8. 寸法のないK型溶接の表示のある箇所は、完全溶込み溶接を用いること。

首都圏中央連絡自動車道 入間インターチェンジ橋耐震補強工事			
図面の種類	大泉高架橋(上下線) A1橋台 落橋防止構造詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 所 沢 管 理 事 務 所		

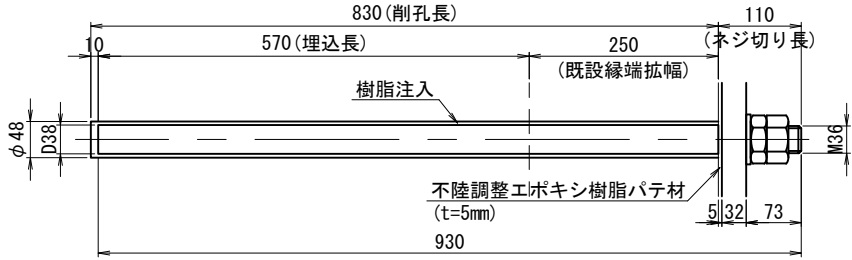
下部工側ブラケット S=1:30  
落橋防止構造 鋼製ブラケットB



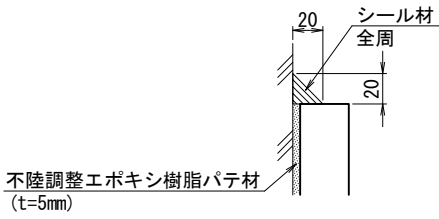
- 1箇所当り：全3箇所  
1-PL 818x32x1680 (SM490B)  
1-PL 500x22x1680  
1-PL 268x22x1680  
1-PL 453x25x 781  
2-Ring PL 256x22x256  
6-PL 453x22x 781  
18-Anc Bolt D38x930 (SD345)  
18-Nut M36 (1種) (SS400)  
18-Nut M36 (3種) (SS400)  
18-Washer M36 (SS400)

- 1箇所当り：全3箇所  
1-PL 818x32x1740 (SM490B)  
1-PL 500x22x1740  
1-PL 268x22x1740  
1-PL 453x25x 781  
2-Ring PL 256x22x256  
6-PL 453x22x 781  
18-Anc Bolt D38x930 (SD345)  
18-Nut M36 (1種) (SS400)  
18-Nut M36 (3種) (SS400)  
18-Washer M36 (SS400)

アンカーボルト詳細図 S=1:10  
落橋防止構造 アンカーエφ48・830(水平方向)



シール材詳細図 S=1:5



- 注記)
- 特記なき材質は全て SM490A とする。
  - 特記なきスカーラップは 50R とする。
  - 部材加工・製作に際しては現地計測を行い、実測値を反映のこと。
  - アンカーボルトは削孔部の鉄筋探索を行い、鉄筋を避けて施工のこと。
  - 寸法のないK型溶接の表示のある箇所は、完全溶込み溶接を用いること。
  - 材料は溶融亜鉛めっき処理とする。  
付着膜厚は、JIS H8641とする。  
鋼材、形鋼 t=6mm以上 HDZT77  
ボルト・ナット類、3. 2mm未満の鋼材 HDZT49

首都圏中央連絡自動車道 入間インターチェンジ橋耐震補強工事			
図面の種類	大泉高架橋(上下線)		
	A1橋台 落橋防止構造詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 所 沢 管 理 事 務 所		

下り線

上り線

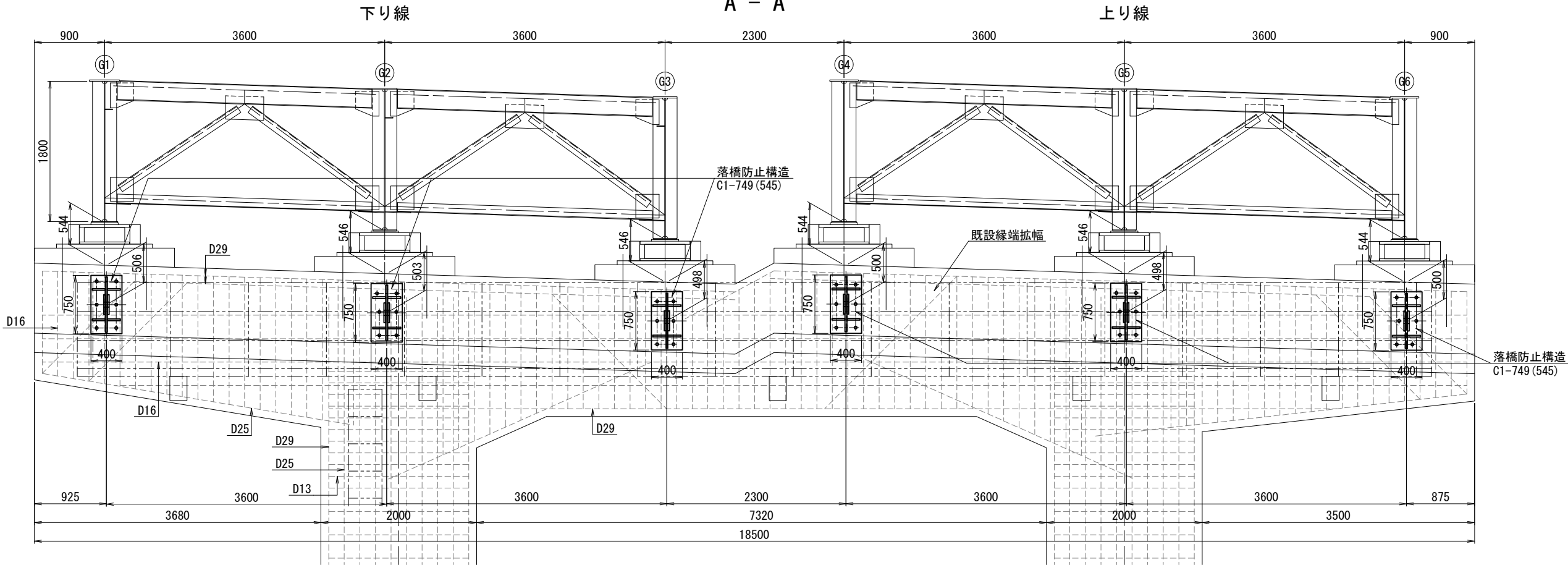


1. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、竣工図を基に作図を行っている。
2. 既設構造物寸法形状は、工事に先立ち再計測・再確認を行い、実測値を反映すること。

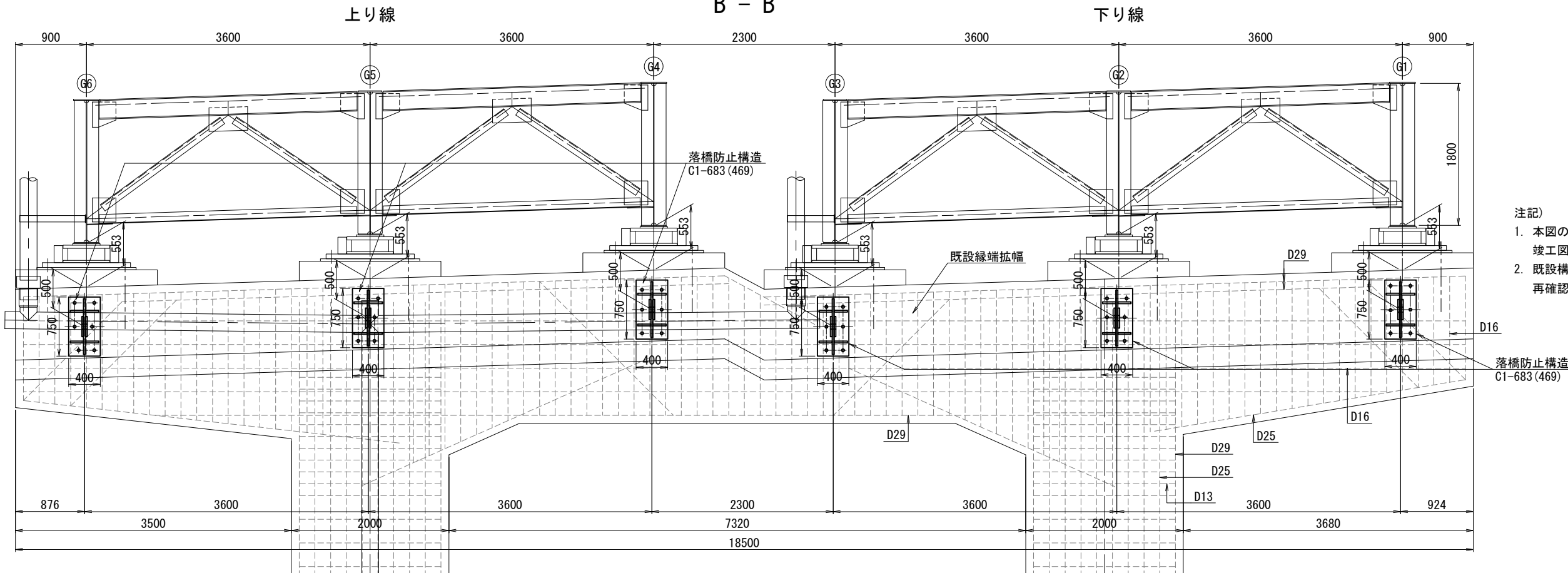
<p>首都圏中央連絡自動車道 人間インターチェンジ橋耐震補強工事</p>			
<p>大京高架構(上下線)</p>			
図面の種類	<p>P6橋脚 落橋防止システム配置図(その1)</p>		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	<p>パンフィックコンサルタンツ株式会社</p>		
施工会社名	<p></p>		
事務所名	<p>東日本高速道路株式会社 関東支社 所 沢 管 理 事 務 所</p>		



正面図  
A - A



正面図  
B - B

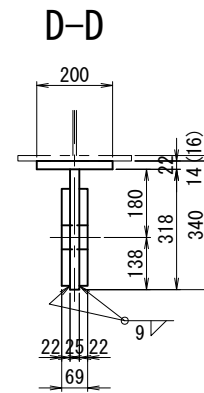


注記)  
1. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、竣工図を基に作図を行っている。  
2. 既設構造物寸法形状は、工事に先立ち再計測・再確認を行い、実測値を反映すること。

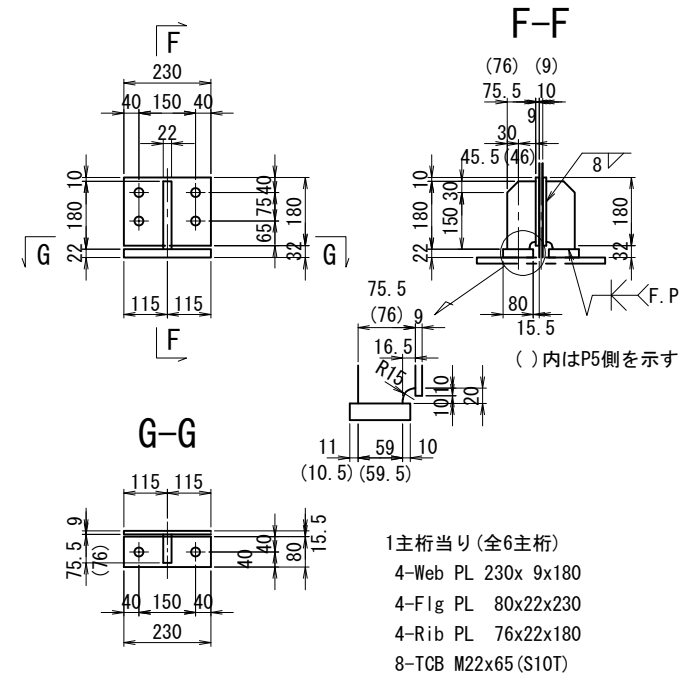
首都圏中央連絡自動車道 入間インターチェンジ橋耐震補強工事			
図面の種類	大泉高架橋（上下線）		
	P6橋脚 落橋防止システム配置図（その2）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 所沢管理事務所		



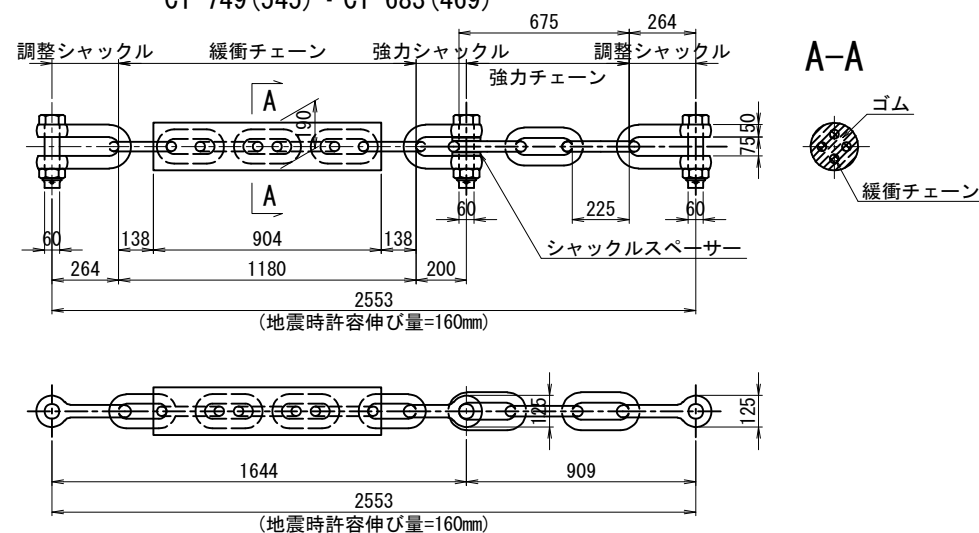
上部工補強工 B



			L1	L2	L3	L4
P5側	上り線	G4	90	80	100	90
		G5	70	70	70	150
		G6	90	80	80	110
P7側	上り線	G4	80	105	85	90
		G5	150	70	70	70
		G6	110	80	80	90



S=1:30



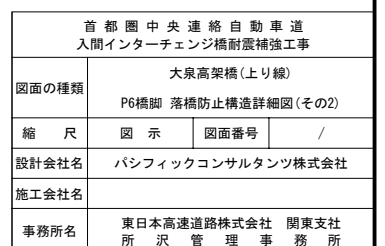
起点側	
死荷重反力	1430 kN
設計水平地震力	2145 kN
1本当たりの引張力	749 kN
設計移動量	545 mm

死荷重反力	1290 kN
設計水平地震力	1935 kN
1本当たりの引張力	683 kN
設計移動量	469 mm

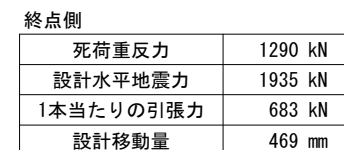
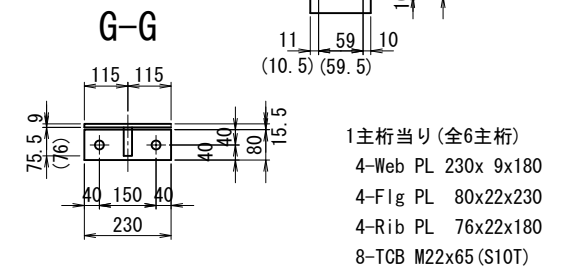
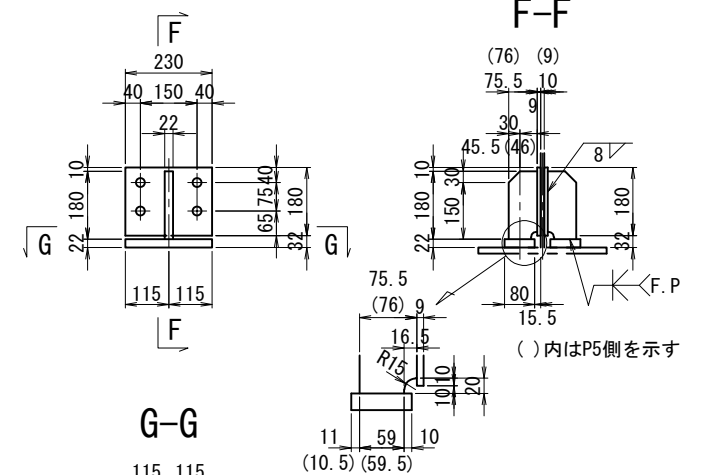
1. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、竣工図を基に作図を行っている。
2. 既設構造物寸法形状は、工事に先立ち再計測・再確認を行い、実測値を反映すること。
3. 特記なき材質は全て SM400A とする。
4. 高力ボルトはトルシア形 M22 (S10T) とする。
5. 部材加工・製作に際しては現地計測を行い、実測値を反映のこと。
6. アンカーボルトは削孔部の鉄筋探索を行い、鉄筋を避けて施工のこと。
7. 特記なき孔明けは、既設部材：24.5φ、新設部材：26.5φとする。
8. 寸法のないK型溶接の表示のある箇所は、完全溶込み溶接を用いること。

首都圏中央連絡自動車道 入間インターチェンジ橋脚震害補強工事			
図面の種類	大京高架橋(上り線) P6橋脚 落橋防止構造詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 所 沢 管 理 事 務 所		関東支社

C-C



上部工補強工 B



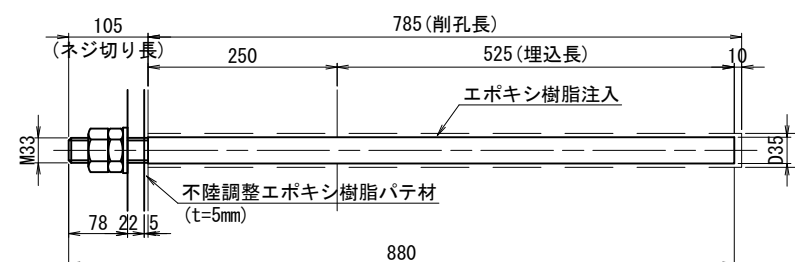
1. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、竣工図を基に作図を行っている。
2. 既設構造物寸法形状は、工事に先立ち再計測・再確認を行い、実測値を反映すること。
3. 特記なき材質は全て SM400A とする。
4. 高力ボルトはトルシア形 M22(S10T) とする。
5. 部材加工・製作に際しては現地計測を行い、実測値を反映のこと。
6. アンカーボルトは削孔部の鉄筋探索を行い、鉄筋を避けて施工のこと。
7. 特記なき孔明けは、既設部材：24.5φ、新設部材：26.5φとする。
8. 寸法のないK型溶接の表示のある箇所は、完全溶込み溶接を用いること。

首都圏中央連絡自動車道 入間インターチェンジ橋脚震害補強工事			
大泉高架橋(下り線)			
図面の種類	P6橋脚 落橋防止構造物詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 沼 沢 管 理 事 務 所		

## 落橋防止構造 鋼製ブラケットB



アンカーボルト詳細図 S=1:10  
落橋防止構造 アンカー工φ45・785(水平方向)



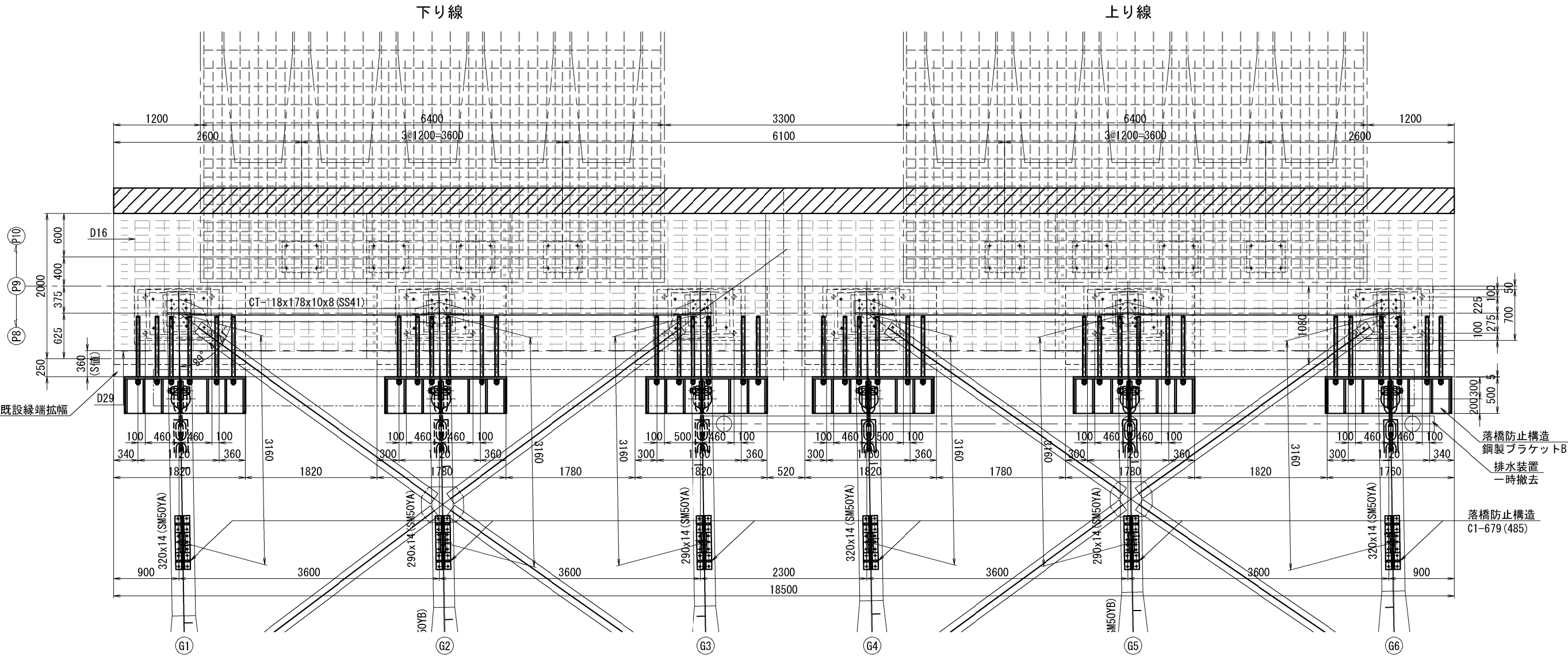
1. 特記なき材質は全て SM490A とする。
2. 部材加工・製作に際しては現地計測を行い、実測値を反映のこと。
3. アンカーボルトは削孔部の鉄筋探索を行い、鉄筋を避けて施工のこと。
4. 寸法のないK型溶接の表示のある箇所は、完全溶込み溶接を用いること。
5. 材料は溶融亜鉛めっき処理とする。  
付着膜厚は、JIS H8641 とする。

鋼材・腹鋼      t=6mm以上      HDZT77

ボルト・ナット類、3.2mm未満の鋼材      HDZT49

	首都圏中央連絡自動車道 人間インターチェンジ橋脚耐震補強工事		
図面の種類	大京高架橋(下り線) P6橋脚 落橋防止構造詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 所 沢 管 理 事 務 所		

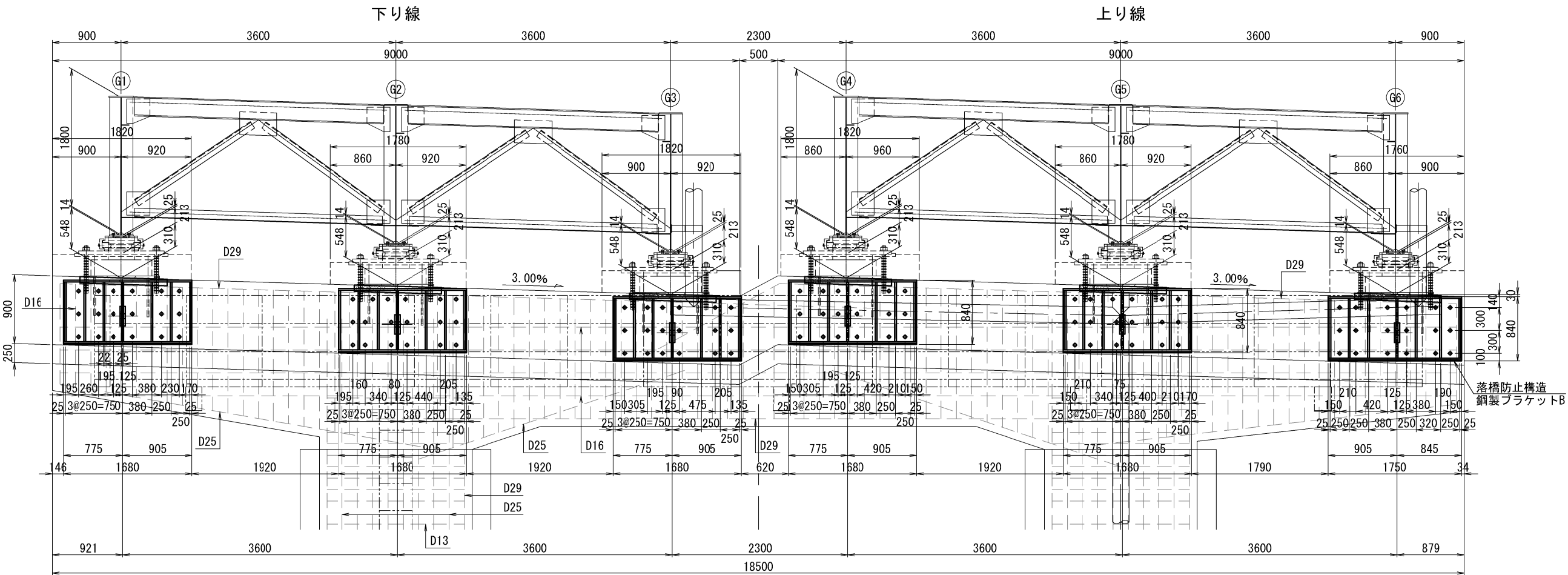
平面図



- 注記)
1. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、竣工図を基に作図を行っている。
  2. 既設構造物寸法形状は、工事に先立ち再計測・再確認を行い、実測値を反映すること。

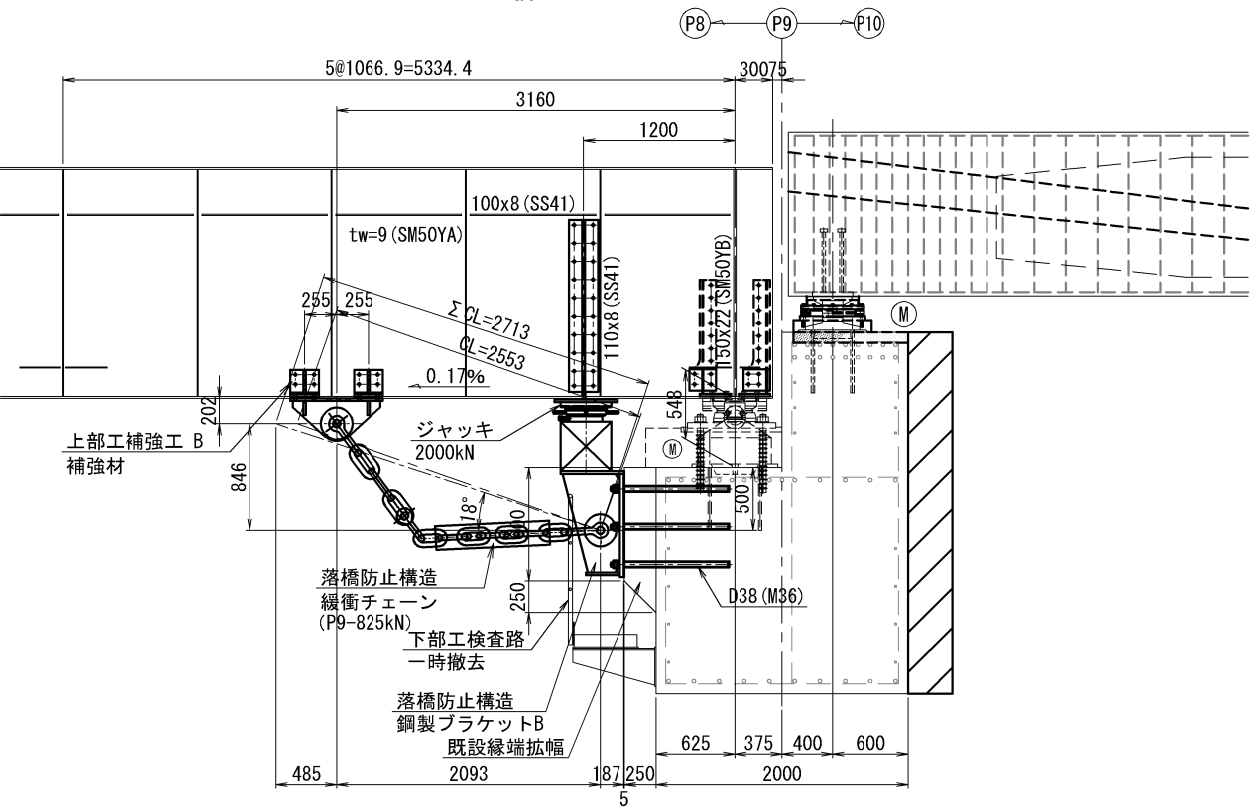
首都圏中央連絡自動車道 入間インターチェンジ橋耐震補強工事			
図面の種類	大泉高架橋(上下線)P9橋脚(起点側) 落橋防止システム配置図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 所 沢 管 理 事 務 所		

正面図



側面図

G1



注記

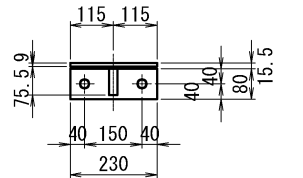
1. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、竣工図を基に作図を行っている。

2. 既設構造物寸法形状は、工事に先立ち再計測・再確認を行い、実測値を反映すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間インターチェンジ橋耐震補強工事			
図面の種類	大泉高架橋(上下線)P9橋脚(起点側) 落橋防止システム配置図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 所 沢 管 理 事 務 所		



上部工補強工 B

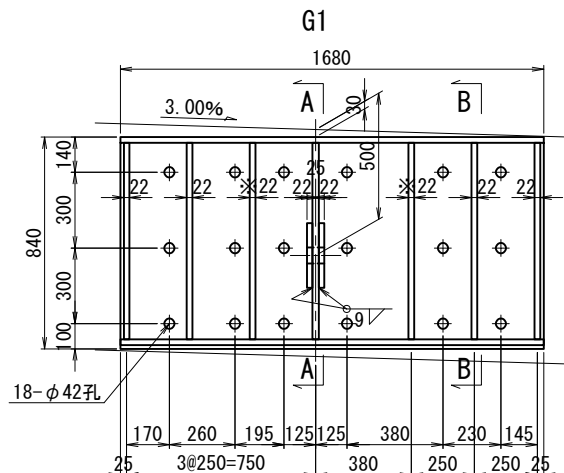
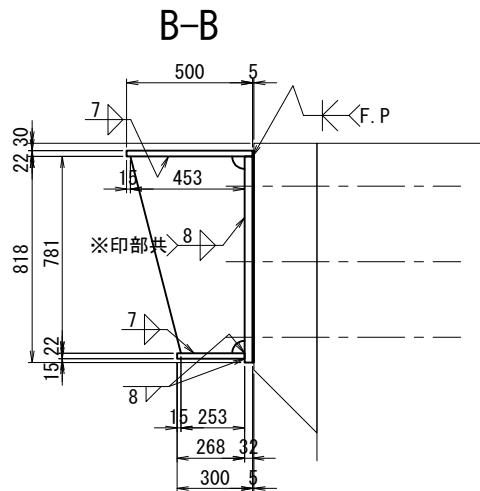
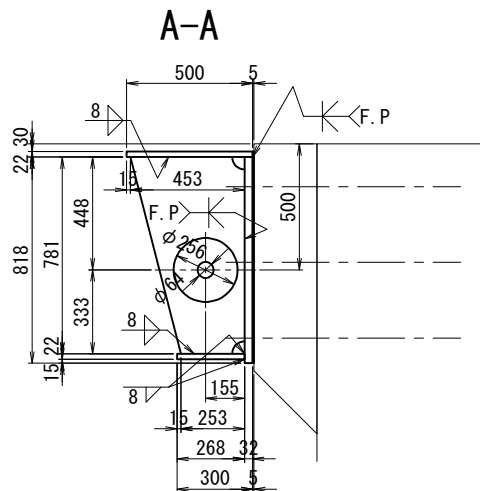


死荷重反力	1290 kN
設計水平地震力	1935 kN
1本当たりの引張力	679 kN
設計移動量	485 mm

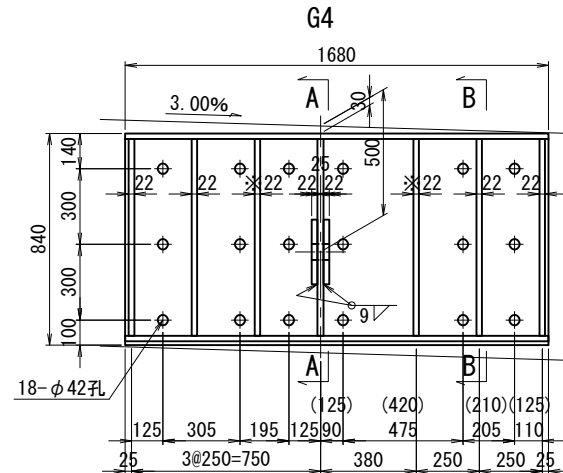
1. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、竣工図を基に作図を行っている。
2. 既設構造物寸法形状は、工事に先立ち再計測・再確認を行い、実測値を反映すること。
3. 特記なき材質は全て SM400A とする。
4. 高力ボルトはトルシア形 M22 (S10T) とする。
5. 部材加工・製作に際しては現地計測を行い、実測値を反映のこと。
6. アンカーボルトは削孔部の鉄筋探査を行い、鉄筋を避けて施工のこと。
7. 特記なき孔明けは、既設部材：24.5φ、新設部材：26.5φとする。
8. 寸法のないK型溶接の表示のある箇所は、完全溶込み溶接を用いること。

首都圏中央連絡自動車道 入間インターチェンジ橋脚変橋強化工事		
図面の種類	大京高架橋（上下線）P9橋脚（起点側） 落橋防止構造詳細図（その1）	
縮 尺	図 示	図面番号 /
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社	
施工会社名		
事務所名	東日本高速道路株式会社 所 沢 管 理 事 務 所	関東支社 所

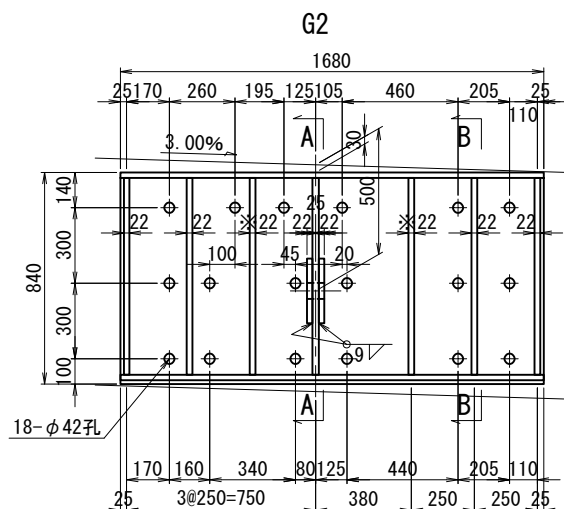
下部工側ブラケット  
落橋防止構造 鋼製ブラケットB



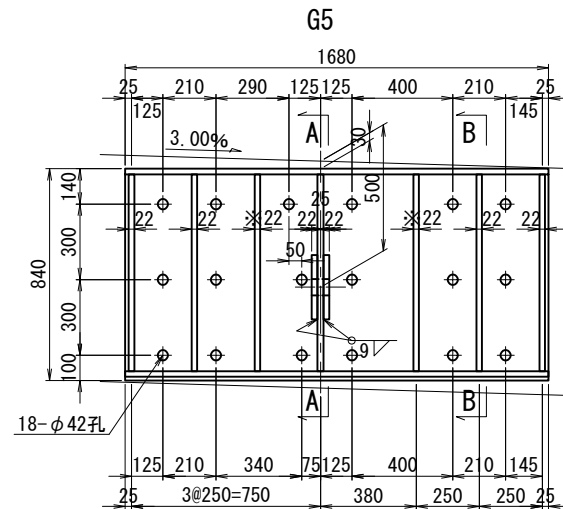
- 1箇所当り：全1箇所  
1-PL 818x32x1680 (SM490B)  
1-PL 500x22x1680  
1-PL 268x22x1680  
1-PL 453x25x 781  
2-Ring PL 256x22x256  
6-PL 453x22x 781  
18-Anc Bolt D38x930 (SD345)  
18-Nut M36 (1種) (SS400)  
18-Nut M36 (3種) (SS400)  
18-Washer M36 (SS400)



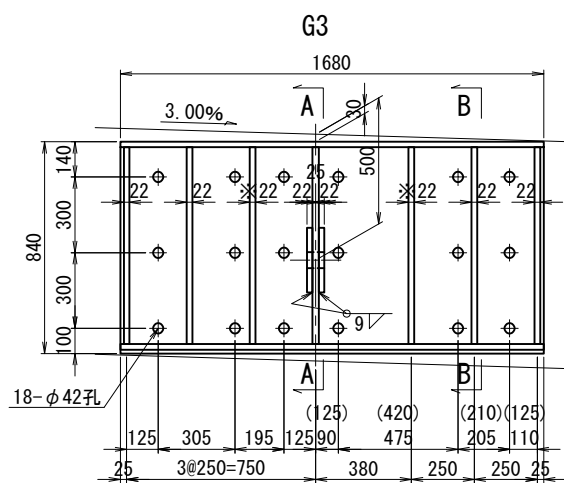
- 1箇所当り：全1箇所  
1-PL 818x32x1680 (SM490B)  
1-PL 500x22x1680  
1-PL 268x22x1680  
1-PL 453x25x 781  
2-Ring PL 256x22x256  
6-PL 453x22x 781  
18-Anc Bolt D38x930 (SD345)  
18-Nut M36 (1種) (SS400)  
18-Nut M36 (3種) (SS400)  
18-Washer M36 (SS400)



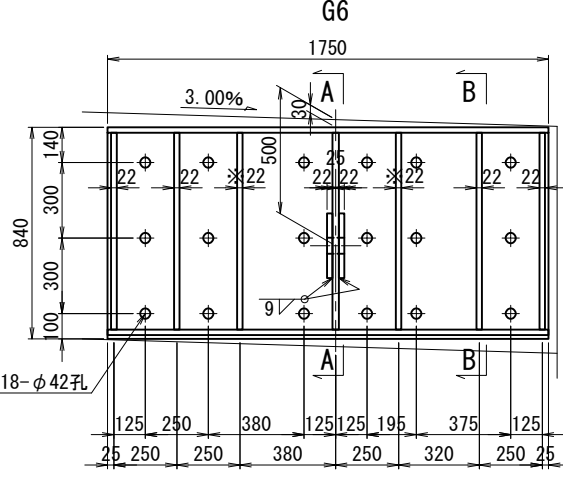
- 1箇所当り：全1箇所  
1-PL 818x32x1680 (SM490B)  
1-PL 500x22x1680  
1-PL 268x22x1680  
1-PL 453x25x 781  
2-Ring PL 256x22x256  
6-PL 453x22x 781  
18-Anc Bolt D38x930 (SD345)  
18-Nut M36 (1種) (SS400)  
18-Nut M36 (3種) (SS400)  
18-Washer M36 (SS400)



- 1箇所当り：全1箇所  
1-PL 818x32x1680 (SM490B)  
1-PL 500x22x1680  
1-PL 268x22x1680  
1-PL 453x25x 781  
2-Ring PL 256x22x256  
6-PL 453x22x 781  
18-Anc Bolt D38x930 (SD345)  
18-Nut M36 (1種) (SS400)  
18-Nut M36 (3種) (SS400)  
18-Washer M36 (SS400)

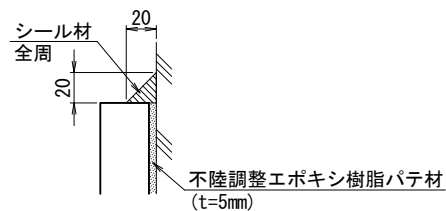


- 1箇所当り：全1箇所  
1-PL 818x32x1680 (SM490B)  
1-PL 500x22x1680  
1-PL 268x22x1680  
1-PL 453x25x 781  
2-Ring PL 256x22x256  
6-PL 453x22x 781  
18-Anc Bolt D38x930 (SD345)  
18-Nut M36 (1種) (SS400)  
18-Nut M36 (3種) (SS400)  
18-Washer M36 (SS400)

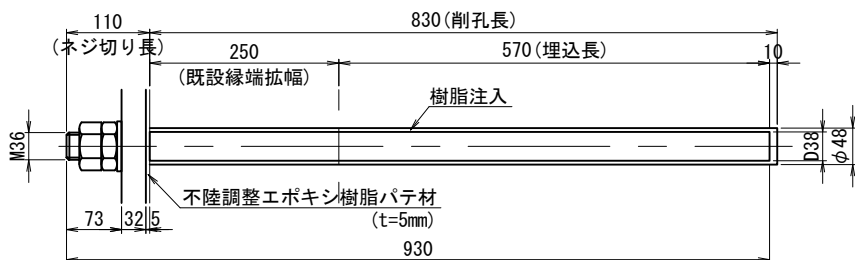


- 1箇所当り：全1箇所  
1-PL 818x32x1750 (SM490B)  
1-PL 500x22x1750  
1-PL 268x22x1750  
1-PL 453x25x 781  
2-Ring PL 256x22x256  
6-PL 453x22x 781  
18-Anc Bolt D38x930 (SD345)  
18-Nut M36 (1種) (SS400)  
18-Nut M36 (3種) (SS400)  
18-Washer M36 (SS400)

シーラ材詳細図 S=1:5



アンカーボルト詳細図 S=1:10  
落橋防止構造 アンカーエφ48・830(水平方向)



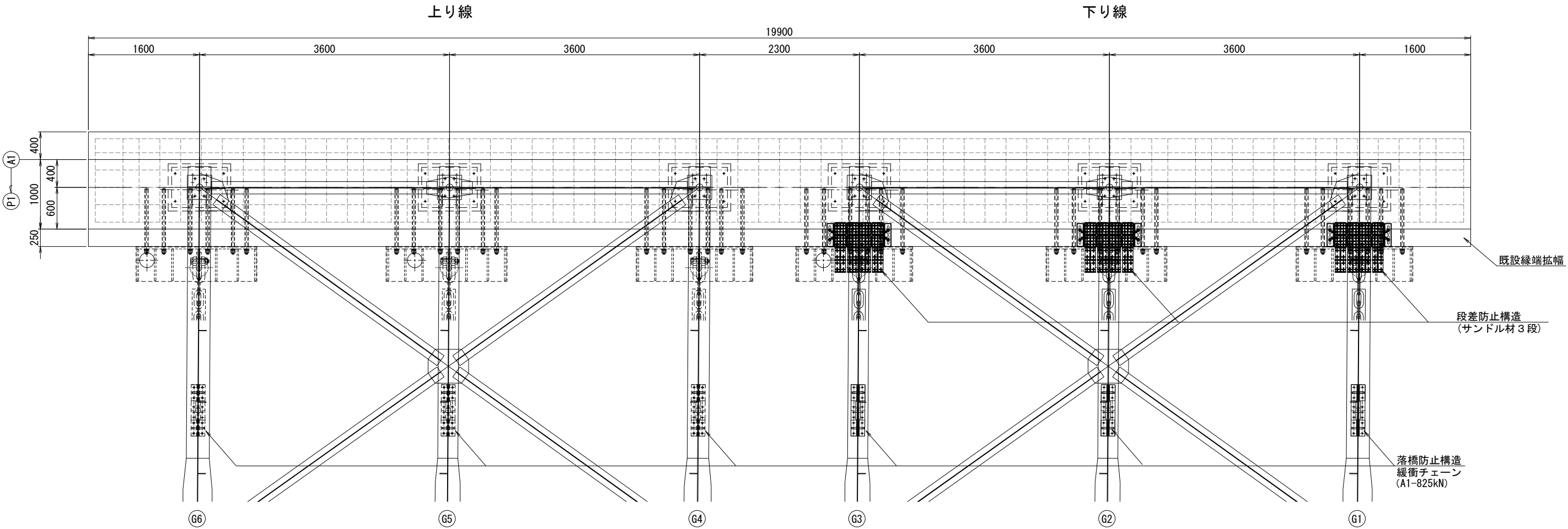
- 注記)  
1. 特記なき材質は全て SM490A とする。  
2. 特記なきスカーラップは R50 とする。  
3. 部材加工・製作に際しては現地計測を行い、実測値を反映のこと。  
4. アンカーボルトは削孔部の鉄筋探索を行い、鉄筋を避けて施工のこと。  
5. 寸法のないK型溶接の表示のある箇所は、完全溶込み溶接を用いること。  
6. 材料は溶融亜鉛めっき処理とする。  
付着膜厚は、JIS H8641とする。  
鋼材、形鋼 t=6mm以上 HDZT77  
ボルト・ナット類、3.2mm未満の鋼材 HDZT49

首都圏中央連絡自動車道 入間インターチェンジ橋耐震補強工事			
図面の種類	大泉高架橋(上下線)P9橋脚(起点側) 落橋防止構造詳細図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 所 沢 管 理 事 務 所		

大泉高架橋(下り線)A1橋台 段差防止構造設置図

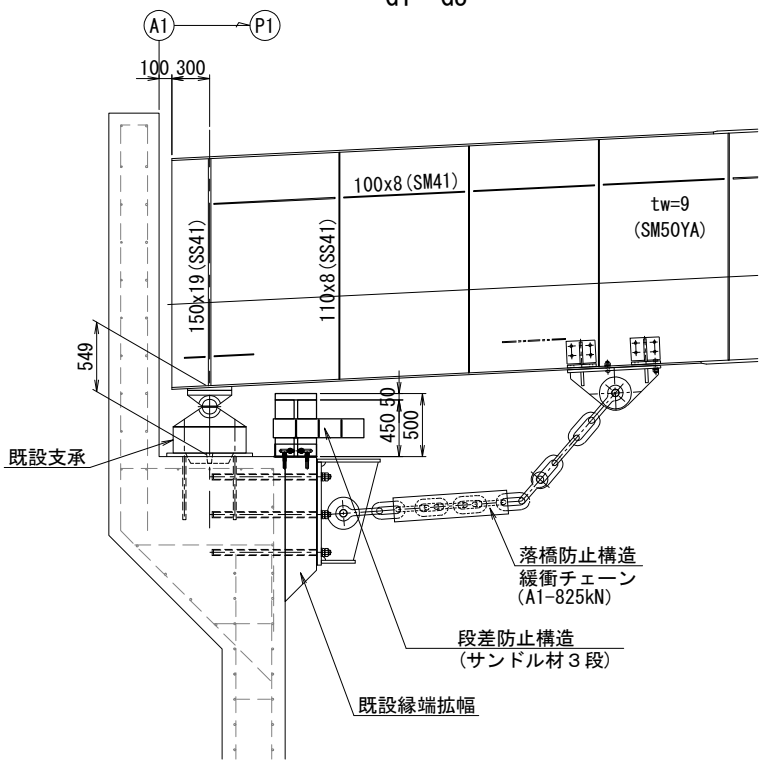
233/243

平面図 S=1:60

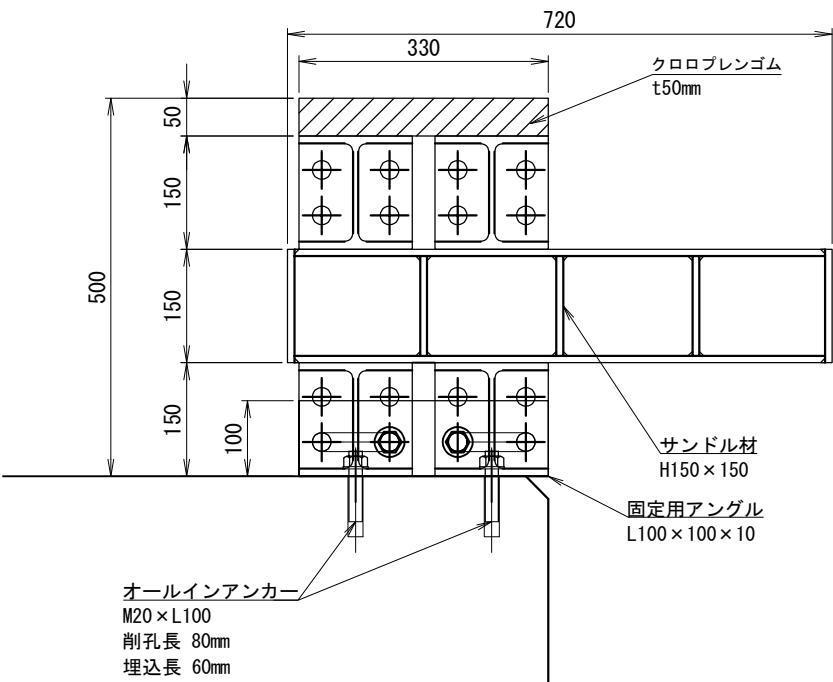


側面図 S=1:60

G1~G3



サンドル材詳細図 S=1:10



数量表 (1箇所当り)

部材名	規格・寸法	単位	数量	備考
緩衝材	720×330×50	枚	1	クロロプレンゴム
サンドル材	L=720	本	8	1段目2本・2段目4本・3段目2本
固定アングル	L=330	本	2	Type1
アンカーボルト	M20×100	本	4	削孔深さ80mm
六角ボルト	M20×70	本	4	1-B. N(2W付) 緩衝材固定用
六角ボルト	M20×60	本	12	1-B. N(1W付)

注記)

- 部材加工・製作に際しては現地計測を行い、実測値を反映のこと。
- アンカーボルトは削孔部の鉄筋探索を行い、鉄筋を避けて施工のこと。
- 材料は溶融亜鉛めっき処理とする。  
付着膜厚は、JIS H8641とする。  
鋼材、形鋼 t=6mm以上  
ボルト・ナット類、3.2mm未満の鋼材

HDZT77

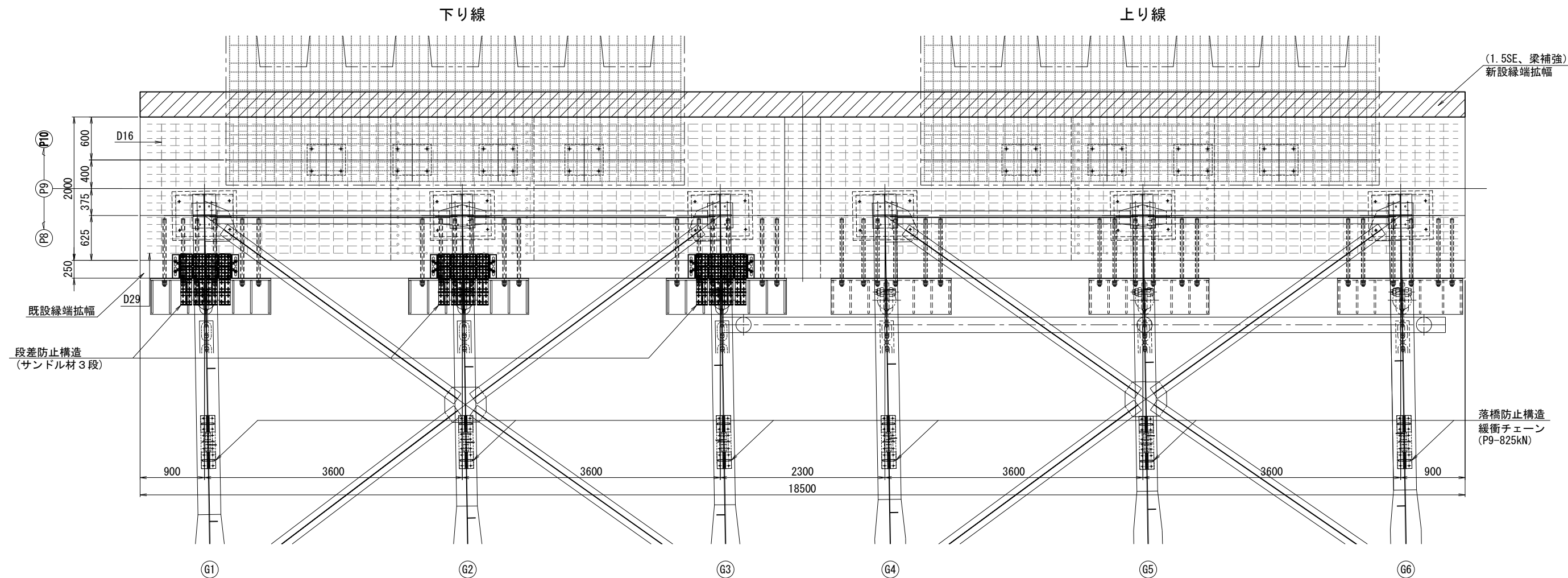
HDZT49

首都圏中央連絡自動車道 入間インターチェンジ橋耐震補強工事			
図面の種類	大泉高架橋(下り線) A1橋台 段差防止構造設置図		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 所 沢 管 理 事 務 所		

大泉高架橋(下り線) P9橋脚(起点側) 段差防止構造設置図

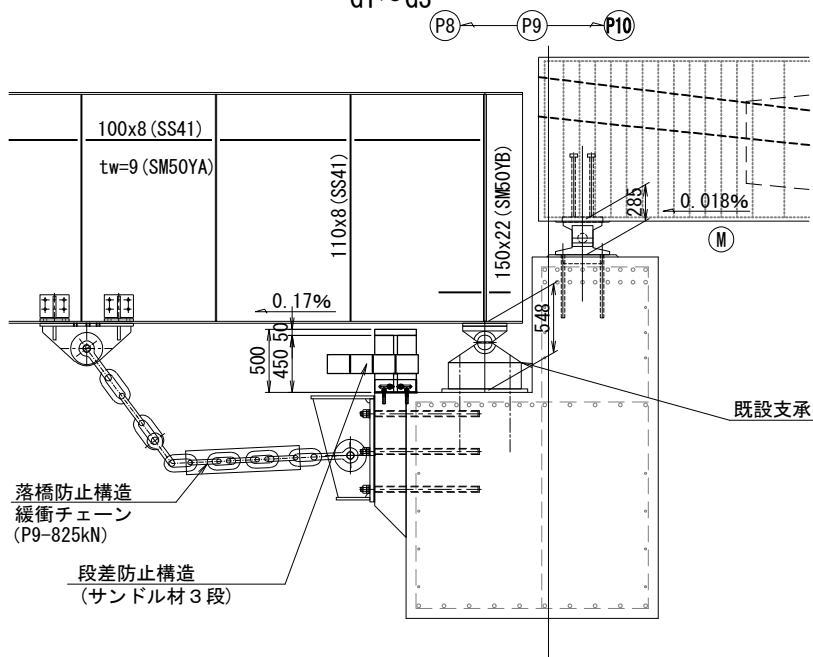
234/243

平面図 S=1:60

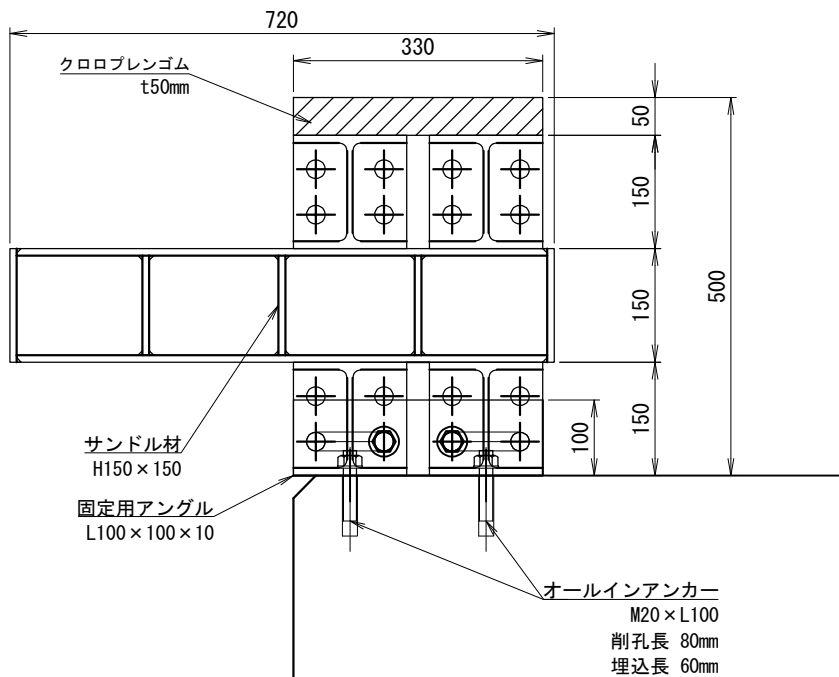


側面図 S=1:60

G1~G3



サンドル材詳細図 S=1:10



数量表 (1箇所当り)

部材名	規格・寸法	単位	数量	備考
緩衝材	720×330×50	枚	1	クロロプレングム
サンドル材	L=720	本	8	1段目2本・2段目4本・3段目2本
固定アングル	L=330	本	2	Type1
アンカーボルト	M20×100	本	4	削孔深さ80mm
六角ボルト	M20×70	本	4	1-B. N (2W付) 緩衝材固定用
六角ボルト	M20×60	本	12	1-B. N (1W付)

注記)

- 部材加工・製作に際しては現地計測を行い、実測値を反映のこと。
- アンカーボルトは削孔部の鉄筋探索を行い、鉄筋を避けて施工のこと。
- 材料は溶融亜鉛めっき処理とする。  
付着膜厚は、JIS H8641とする。  
鋼材、形鋼 t=6mm以上  
ボルト・ナット類、3.2mm未満の鋼材

HDZT77

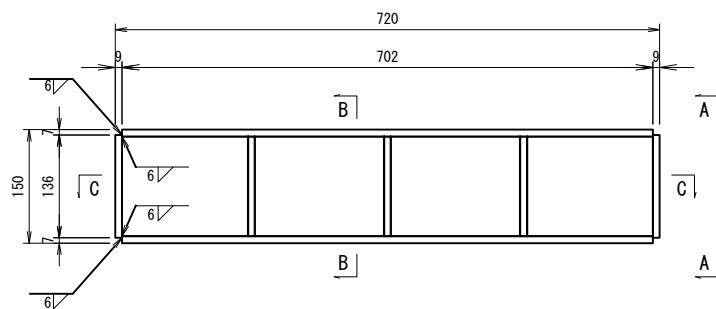
HDZT49

首都圏中央連絡自動車道 入間インターチェンジ橋耐震補強工事			
図面の種類	大泉高架橋(下り線)P9橋脚(起点側) 段差防止構造設置図		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 所沢管理事務所		

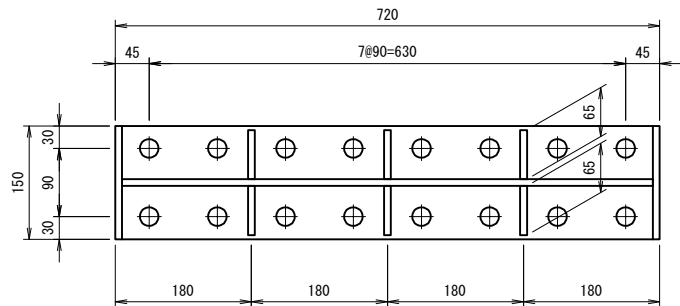
段差防止構造詳細図  
段差防止構造 A

S=1:10

サンドル材製作図

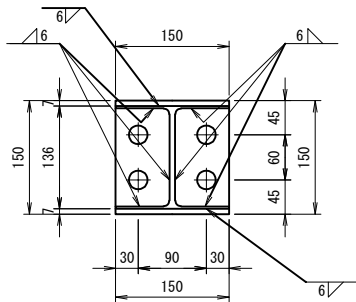


C-C断面図

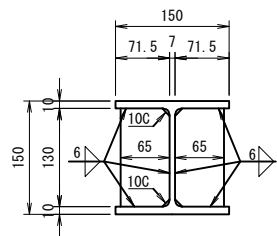


サンドル材1本当り数量  
1-H150x150x7/10 L=702  
2-PL 150x138×9  
6-PL 65x130×9

A-A断面図



B-B断面図

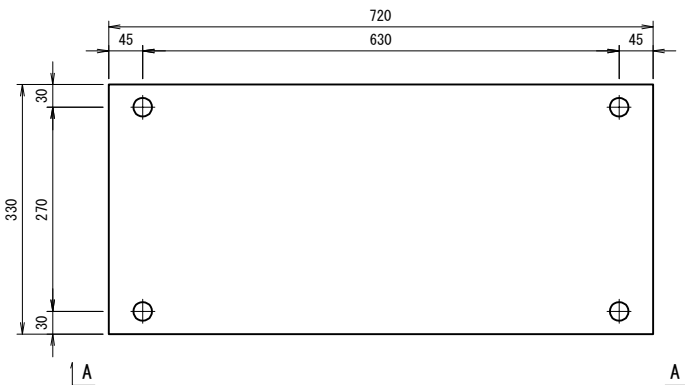


※ 特記なき鋼材の材質は、全てSS400とする。  
※  $\phi$  は全て25φとする

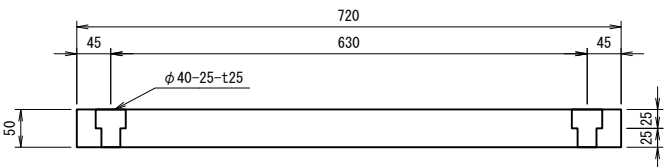
クロロプレンゴム詳細図

720×330× t 50  
4孔 40-25-t25

平面図



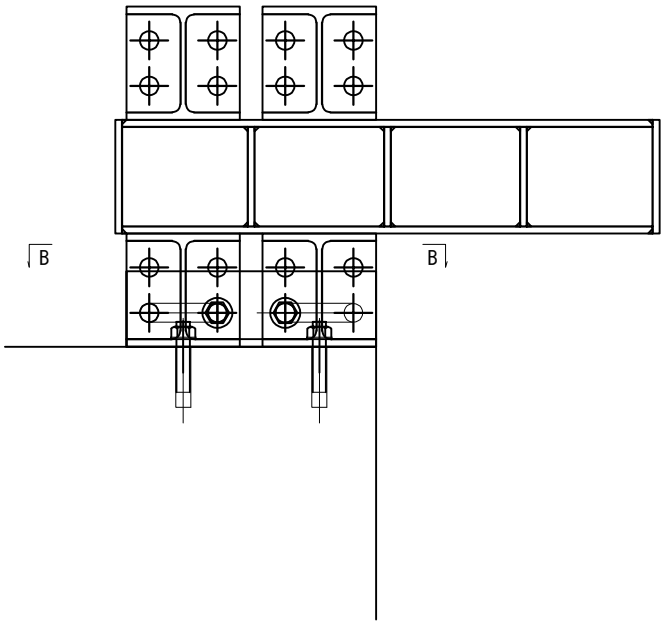
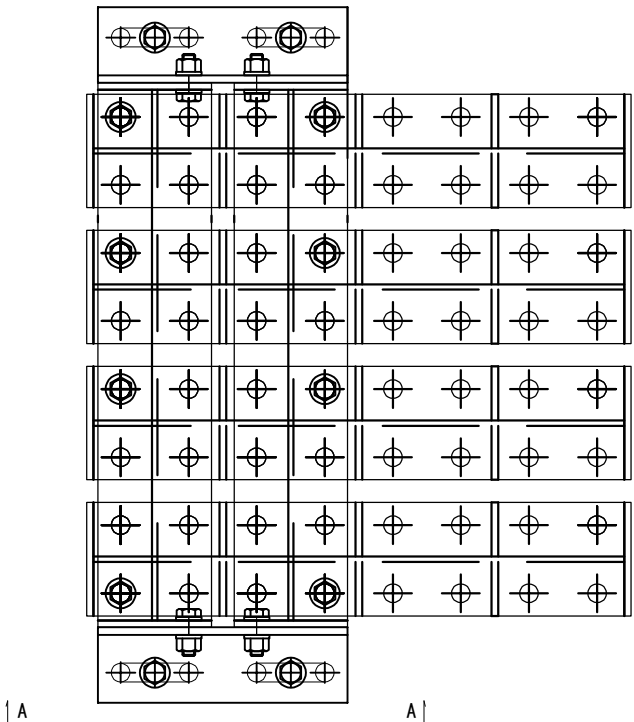
A-A断面図



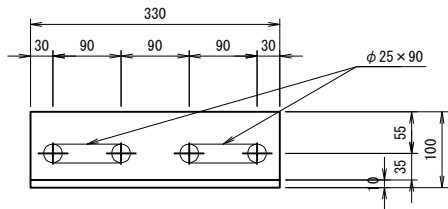
材質は下記特性を満足しているものとする。  
①比 重 : 1.15~1.25  
②引張強度 : 50~250 (kg/cm<sup>2</sup>)  
③伸 び : 100~1000 (%)

固定アングル製作図

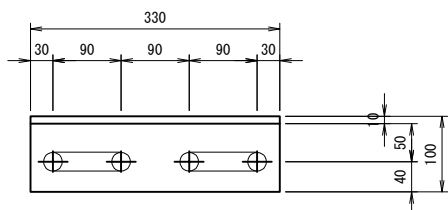
Type1 L=330mm



A-A断面図



B-B断面図

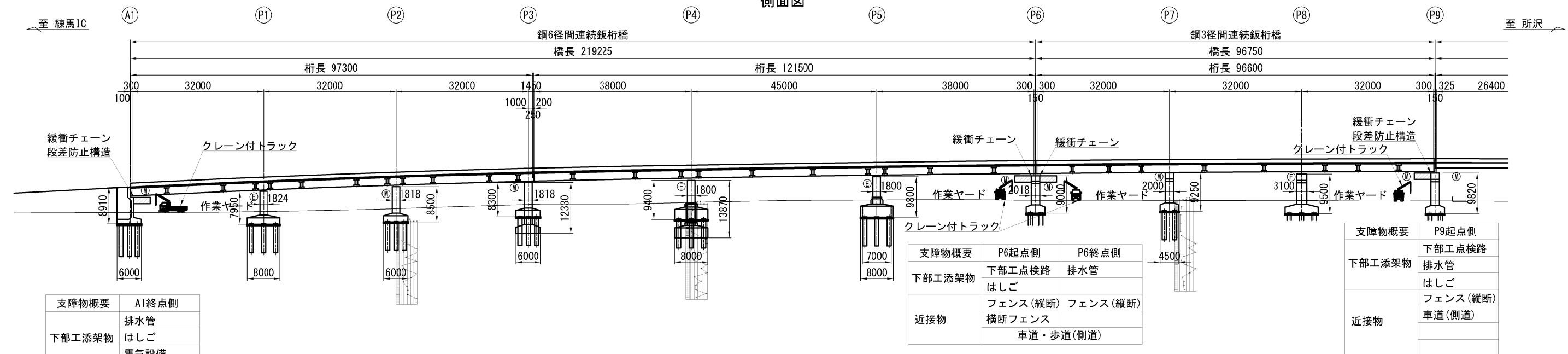


- 注記)
- 部材加工・製作に際しては現地計測を行い、実測値を反映のこと。
  - アンカーボルトは削孔部の鉄筋探査を行い、鉄筋を避けて施工のこと。
  - 材料は溶融亜鉛めっき処理とする。  
付着膜厚は、JIS H8641とする。  
鋼材、形鋼 t=6mm以上 HDZT77  
ボルト・ナット類、3.2mm未満の鋼材 HDZT49

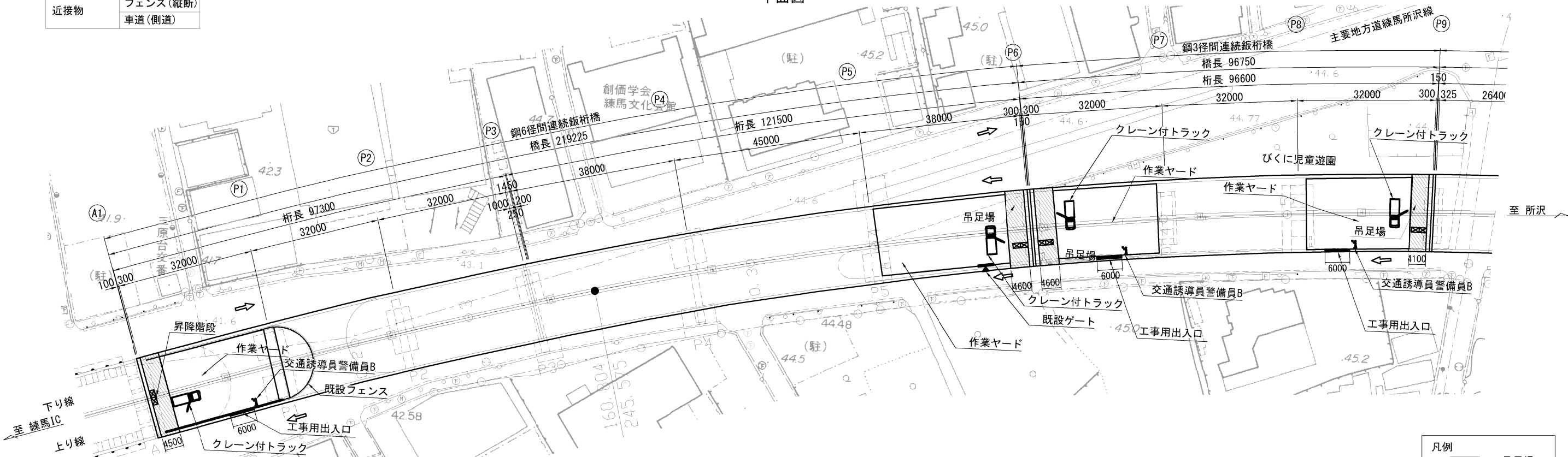
首都圏中央連絡自動車道 入間インターチェンジ橋耐震補強工事			
図面の種類	段差防止構造詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 所 沢 管 理 事 務 所		

大泉高架橋 足場計画図(参考図) S=1:1000  
A1~P9  
側面図

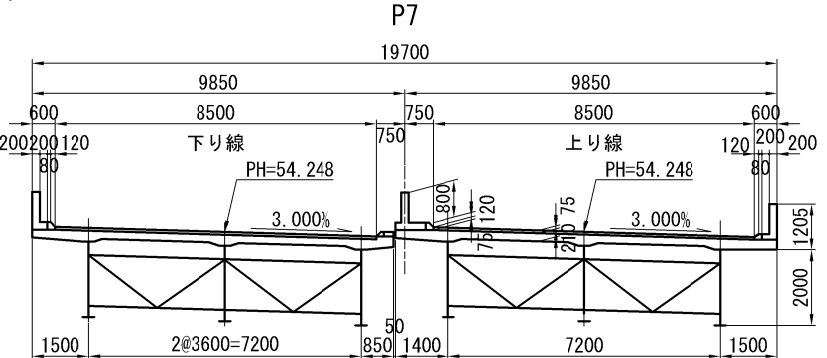
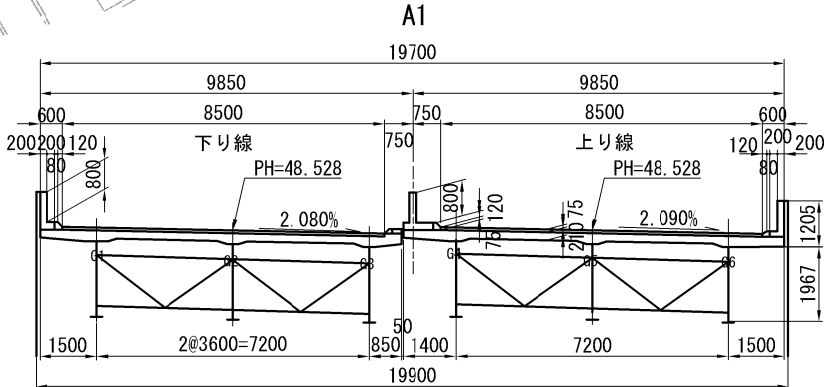
236/243



平面図



上部工断面図 S=1:200



首都圏中央連絡自動車道 入間インターチェンジ橋耐震補強工事			
図面の種類	大泉高架橋 足場計画図(参考図)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	所沢管理事務所		







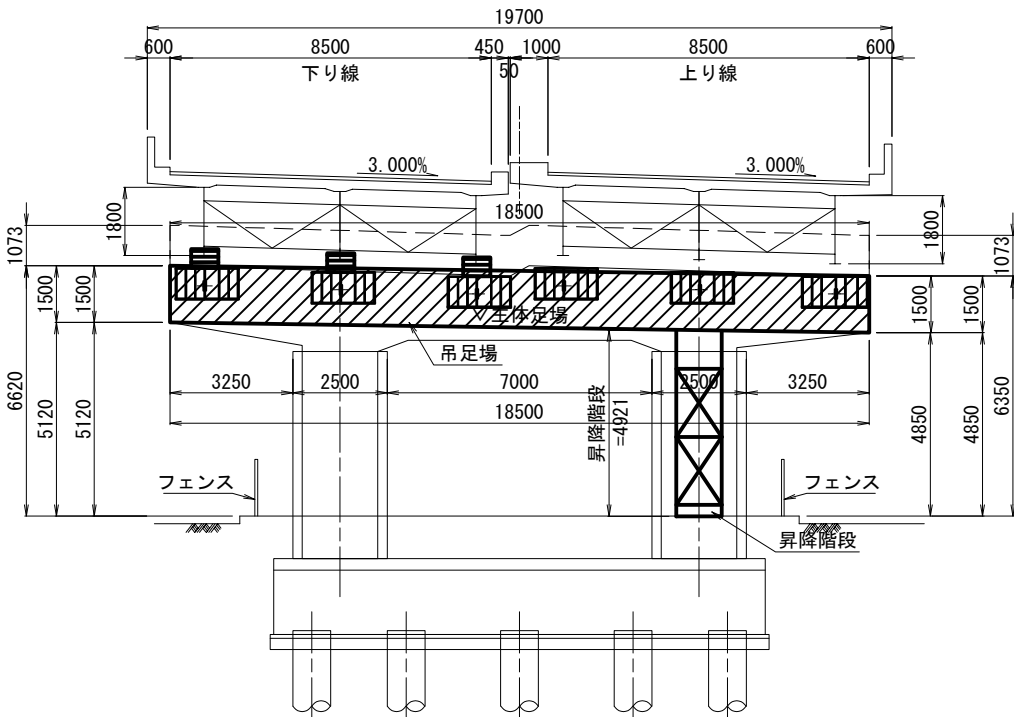
凡例

工 種		凡例
仮設工	吊 足 場	

構造概要		
起 点 側	上部工形式	鋼鈑桁
	落橋防止	緩衝チェーン

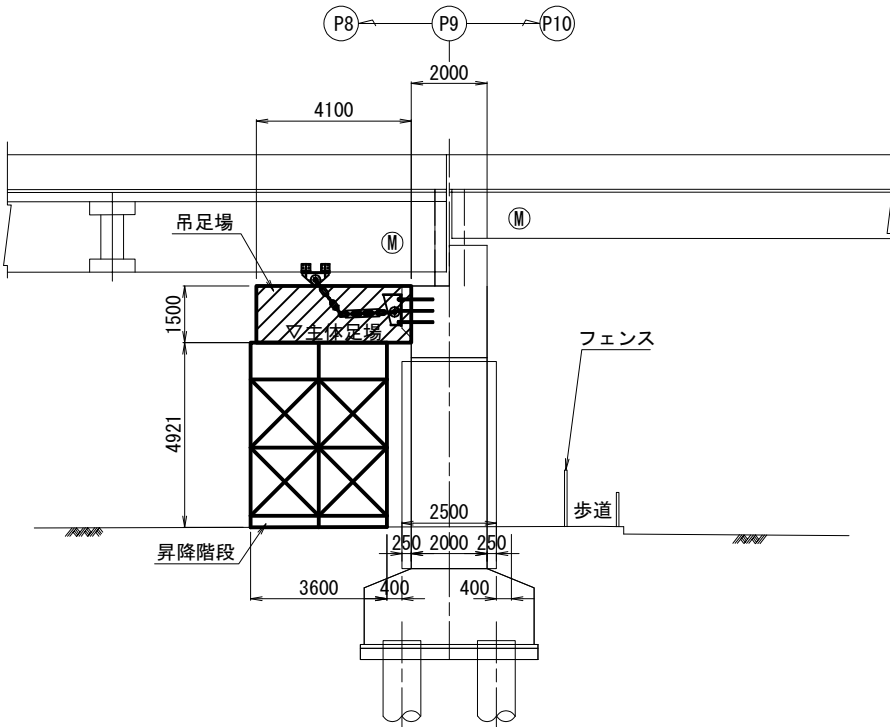
正面図(起点側)

P9橋脚



側面図

上り線側



・ 起点側

支障物概要	
下部工添架物	下部工点検路
	排水管
近接物	はしご
	フェンス(縦断)
	車道(側道)

注記)  
1. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、  
すべて竣工図面及び測量結果を基に作図を  
行なっている。

首都圏中央連絡自動車道 入間インターチェンジ橋耐震補強工事			
図面の種類	大泉高架橋		
	P9橋脚 足場計画図(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 所 沢 管 理 事 務 所		

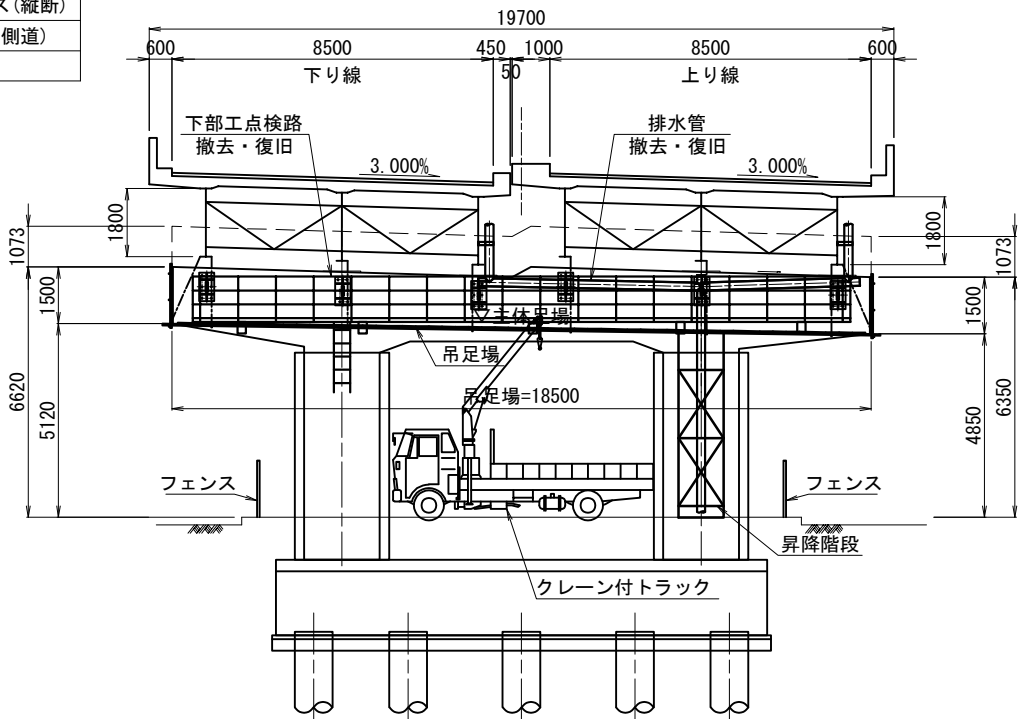
大泉高架橋 P9橋脚 施工要領図(参考図)

・ 起点側

支障物概要	
下部工添架物	下部工点検路
	排水管
	はしご
近接物	フェンス(縦断)
	車道(側道)

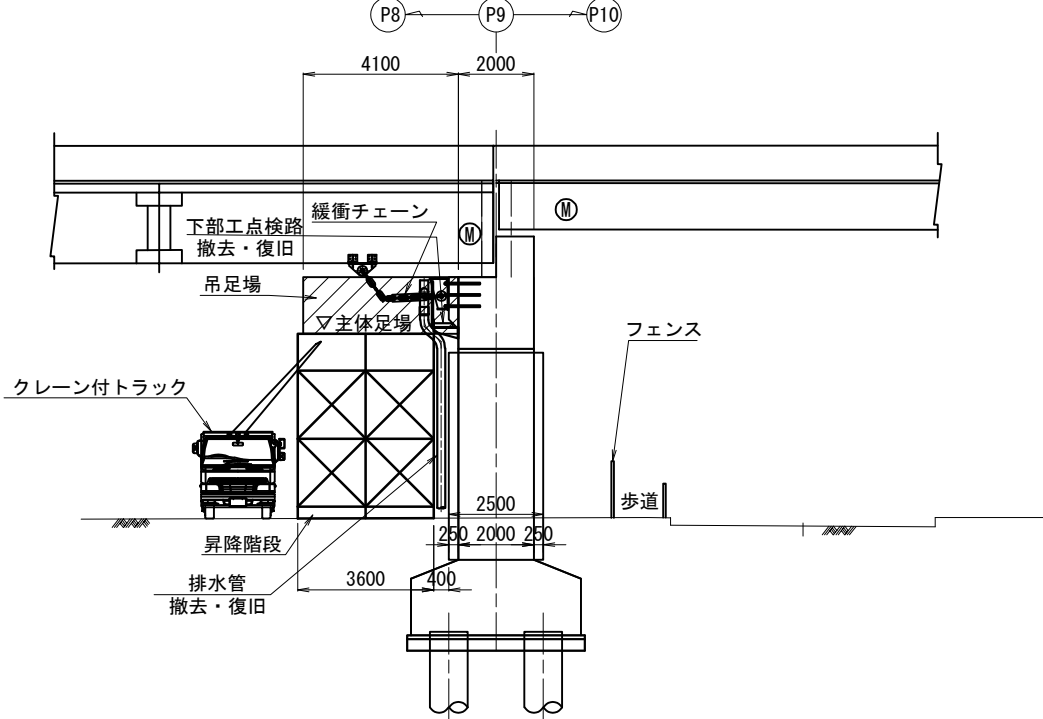
正面図(起点側) S=1:200

P9橋脚

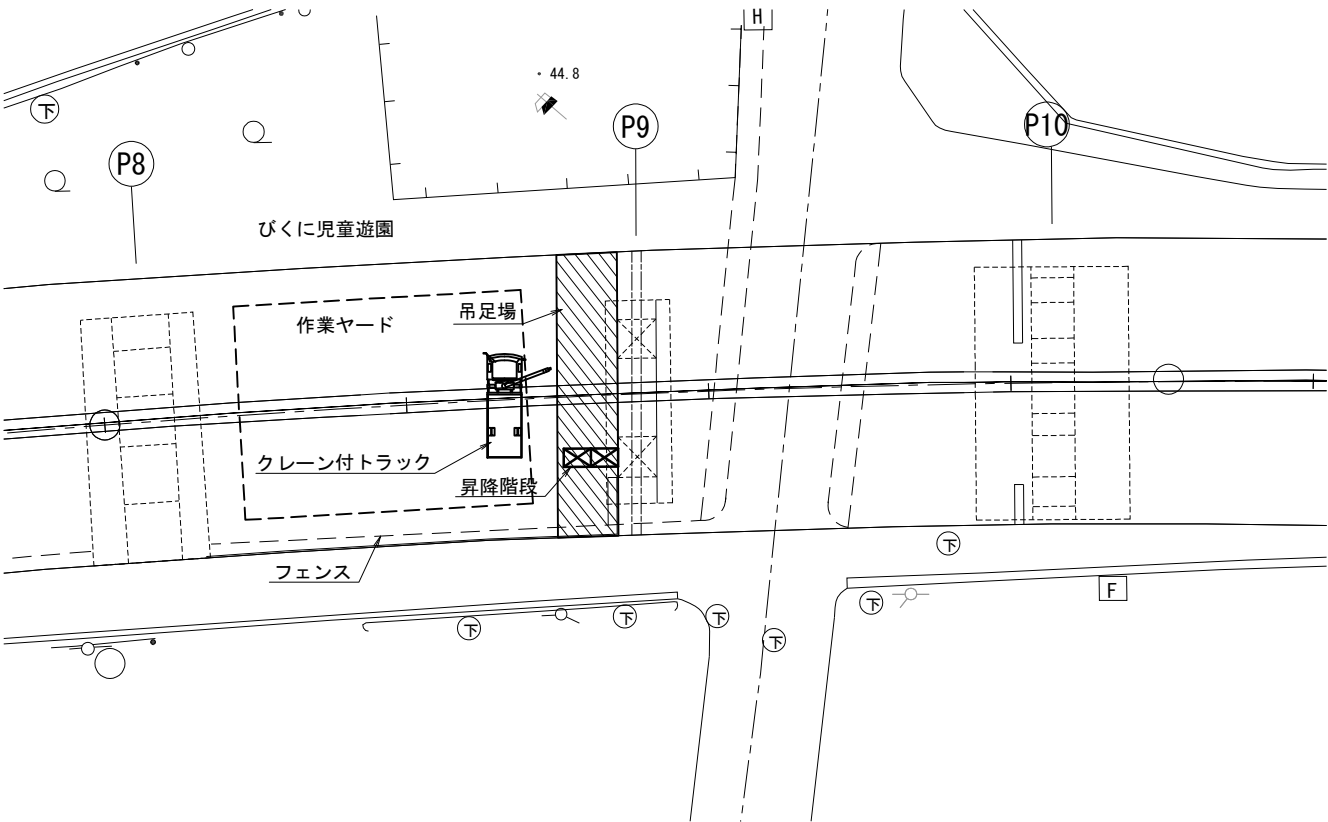


側面図 S=1:200

上り線側



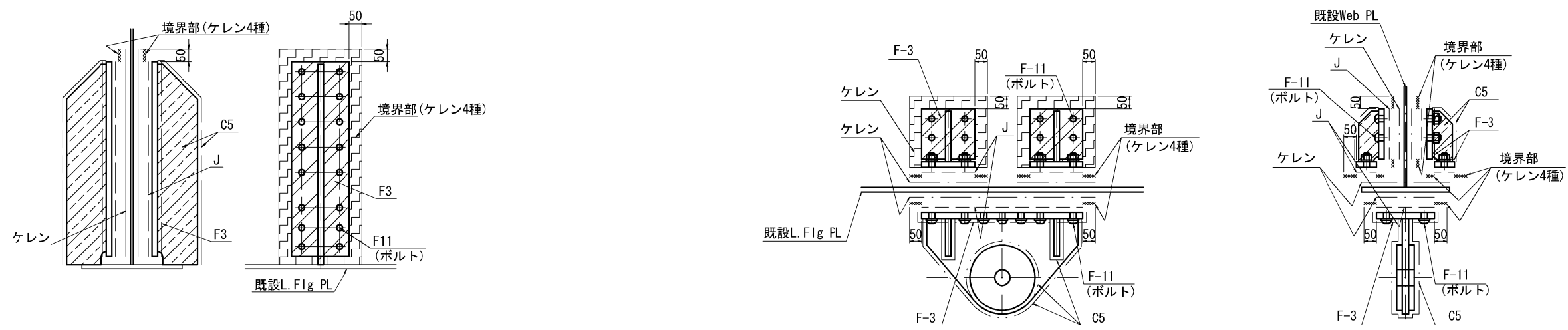
平面図 S=1:500



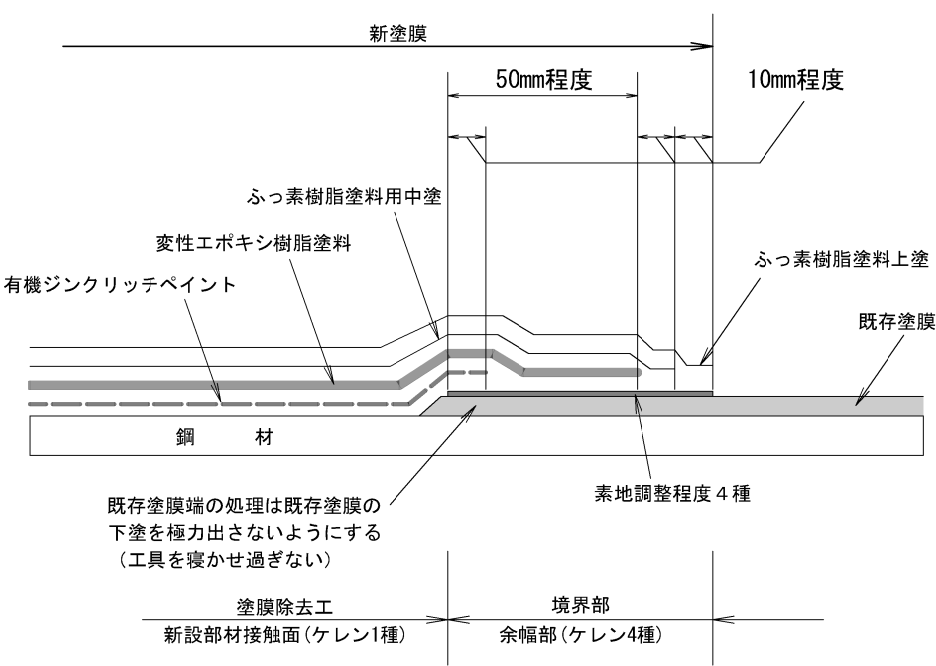
構造概要		
起点側	上部工形式	鋼鈑桁
	落橋防止	緩衝チェーン

首都圏中央連絡自動車道 入間インターチェンジ橋耐震補強工事			
図面の種類	大泉高架橋 P9橋脚 施工要領図(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 所 沢 管 理 事 務 所		

落橋防止構造 上部エブラケットおよび主桁補強材



既存塗膜との境界部の処理



首都圏中央連絡自動車道 入間インターチェンジ橋耐震補強工事			
図面の種類	大泉高架橋		
	塗分け区分図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 所沢管理事務所		

塗 装 仕 様  
一般部の塗装系

記 号	工 程		塗料または素地調整程度	標 準 使用量 (g/m <sup>3</sup> )	塗装間隔	標準 膜厚 (μm)
C5	前 処 理	素地調整	G-a	-	2h以内	-
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	ｽﾌﾟﾚｰ 160		(15)
	工場塗装	2次素地調整	G-a	-	～6ヶ月	-
		下 塗 第1層	無機ジンクリッチペイント	ｽﾌﾟﾚｰ 600	2h以内	75
		ミストコート	エポキシ樹脂塗料下塗あるいは 厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	ｽﾌﾟﾚｰ 160	2～10日	-
		下 塗 第2層	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	ｽﾌﾟﾚｰ 540	1～10日	120
		中塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	ｽﾌﾟﾚｰ 170	1～10日	30
		上塗	ふっ素樹脂塗料上塗	ｽﾌﾟﾚｰ 140	1～10日	25

高力ボルト接合部および現場溶接部（熱影響部以外）の塗装系

記 号	工 程		塗料または素地調整程度	標 準 使用量 (g/m <sup>3</sup> )	塗装間隔	標準 膜厚 (μm)
F3	前 処 理	素地調整	G-a	-	2h以内	-
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	ｽﾌﾟﾚｰ 160		(15)
	工場塗装	2次素地調整	G-a	-	～6ヶ月	-
		下 塗 第1層	無機ジンクリッチペイント	ｽﾌﾟﾚｰ 600	2h以内	75
	現場塗装	ミストコート	変性エポキシ樹脂塗料下塗あるいは 厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(ｽﾌﾟﾚｰ160) ﾊｳﾞ 130	2日 ～12ヶ月	-
		下 塗 第2層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(ｽﾌﾟﾚｰ360) ﾊｳﾞ 300	1～10日	90
		下 塗 第3層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(ｽﾌﾟﾚｰ360) ﾊｳﾞ 300	1～10日	90
		中塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	(ｽﾌﾟﾚｰ170) ﾊｳﾞ 140	1～10日	30
		上塗	ふっ素樹脂塗料上塗	(ｽﾌﾟﾚｰ140) ﾊｳﾞ 120	1～10日	25

高力ボルト頭部および現場溶接部（熱影響部）の塗装系

記 号	工 程		塗料または素地調整程度	標 準 使用量 (g/m <sup>3</sup> )	塗装間隔	標準 膜厚 (μm)
F11	現場塗装	素地調整	G-c	-	2h以内	-
		下 塗 第1層	有機ジンクリッチペイント	ﾊｳﾞ 240		30
		下 塗 第2層	有機ジンクリッチペイント	ﾊｳﾞ 240	1～10日	30
		下 塗 第3層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(ｽﾌﾟﾚｰ360) ﾊｳﾞ 300	1～10日	90
		下 塗 第4層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(ｽﾌﾟﾚｰ360) ﾊｳﾞ 300	1～10日	90
		中塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	(ｽﾌﾟﾚｰ170) ﾊｳﾞ 140	1～10日	30
		上塗	ふっ素樹脂塗料上塗	(ｽﾌﾟﾚｰ140) ﾊｳﾞ 120	1～10日	25

高力ボルト接合部（接触面）の塗装系

記 号	工 程		塗料または素地調整程度	標 準 使用量 (g/m <sup>3</sup> )	塗装間隔	標準 膜厚 (μm)
J	前 処 理	素地調整	G-a	-	2h以内	-
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	ｽﾌﾟﾚｰ 160		(15)
	工場塗装	2次素地調整	G-a	-	～6ヶ月	-
		下 塗	無機ジンクリッチペイント	ｽﾌﾟﾚｰ 600	2h以内	75

一般部（外面）の塗装系（境界部塗装）

記 号	工 程		塗料または素地調整程度	標 準 使用量 (g/m <sup>3</sup> )	塗装間隔	標準 膜厚 (μm)
境界部	現場塗装	素地調整	4種	-	4h以内	-
		下 塗	変性エポキシ樹脂塗料下塗	ﾊｳﾞ 200		60
		中塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	ﾊｳﾞ 140	1～10日	30
		上塗	ふっ素樹脂塗料上塗	ﾊｳﾞ 120	1～10日	25

大泉高架橋 機器配置図(参考図) S=1:2500

内照式標識（一般道）	FL40W×6	FL20W×6
内照式標識（下り線）	FL40W×6	FL20W×6
資産管理番号		

KP0.0
AL1型情報板
門柱
資産管理番号

KP0.0
低圧引込 三原 804
1φ2W 100/200V
練馬ICA板へ
上下内照標識へ
資産管理番号

KP0.150
所沢 6-4
遮音壁張出型
資産管理番号

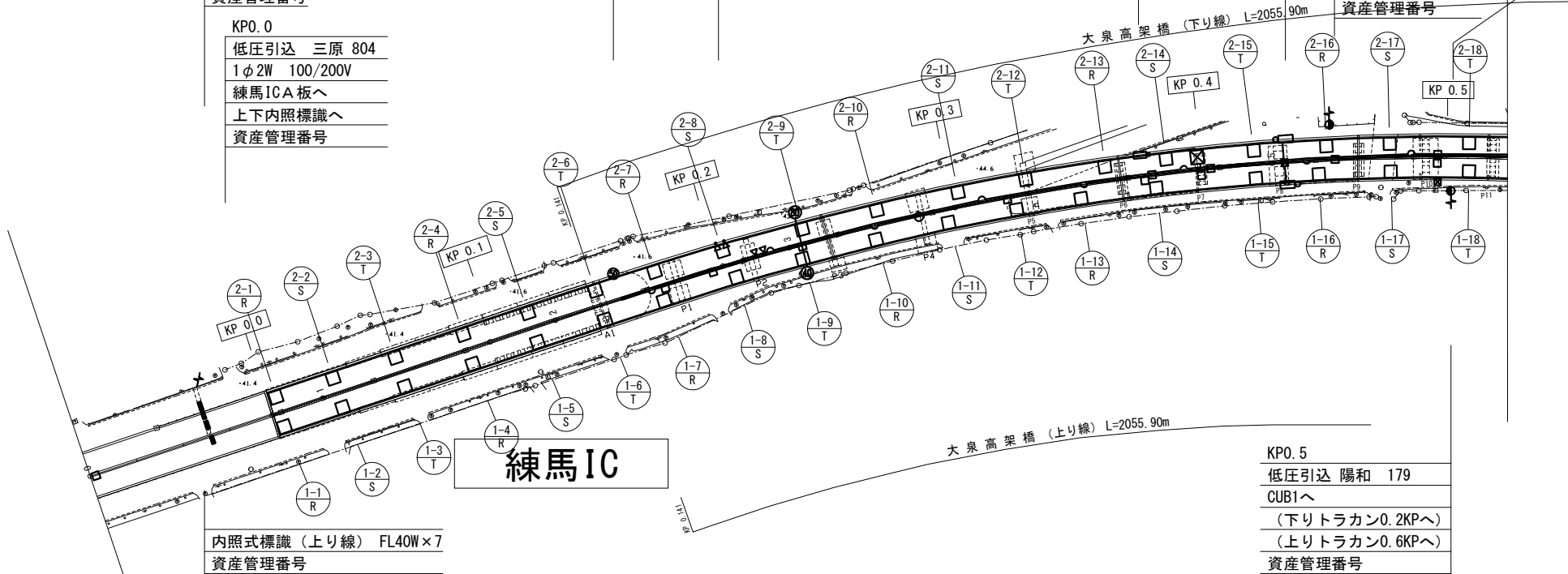
KP0.200
交通量計測設備（超音波）
資産管理番号

KP0.360
ITV No. 1
0B-B
資産管理番号

KP0.421
非常電話
非常電話
資産管理番号

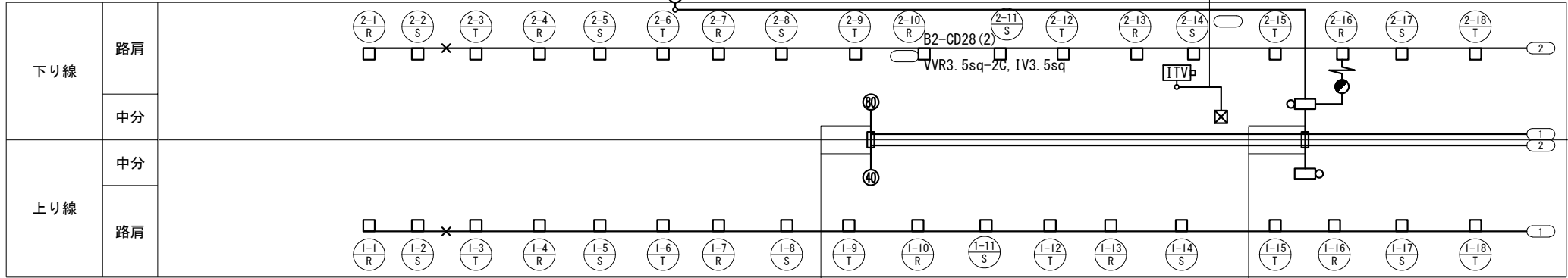
KP0.45
低圧引込 都清 58
1φ2W 100V
ITV NO.1へ
上下非常電話1Aへ
マル50所沢6-4へ
資産管理番号

KP0.5
低圧引込 陽和 179
3φ3W 200V
資産管理番号



水切板内ころがし
② VVR8sq-3C+3.5sq-1C, IV3.5sq
B2-G36(1)
② VVR8sq-3C+3.5sq-1C, IV3.5sq
B2-G36(1)
② VVR8sq-2C+3.5sq-1C, IV3.5sq

水切り板内ころがし
② VVR3.5sq-4C+1C, IV3.5sq



B2-G36(1)
① VVR8sq-2C+3.5sq-1C, IV3.5sq
B2-G36(1)
① VVR8sq-3C+3.5sq-1C, IV3.5sq
水切板内ころがし
① VVR8sq-3C+3.5sq-1C, IV3.5sq

B2-VE36(1)
② VVR3.5sq-2C, IV3.5sq

B1-JP25(1)
② VVR3.5sq-2C, IV3.5sq

凡 例

記号	機 器 名 称	備 考
□	TYPEVII NHT180W	
⊙	可変式速度規制標識	
○	非常電話	
ITV	ITVカメラ	
引込柱	引込柱	

首都圏中央連絡自動車道 入間インターチェンジ橋耐震補強工事			
図面の種類	大泉高架橋 機器配置図(参考図)		
縮 尺	1:2500	図面番号	/
設計会社名	株式会社 ネクスコ東日本エンジニアリング		
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 所 沢 管 理 事 務 所		